

# 新たな福島県総合計画(中間整理案)についての地域懇談会における主な意見と県の考え方

参考資料1-2

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
1	県北	意見発表者	その他	組織化した農家だけでなく、個人農家にも省力化やスマート農業に取り組むための支援をお願いしたい。	現在、品目や経営規模等に応じたスマート農業技術の開発・実証を行っているところであり、農林水産分野の計画において、現場ニーズに応じた技術の最適化やコストを考慮した技術の導入を図ることとしております。
2	県北	意見発表者	その他	温暖化やコロナの影響による農家収入が不安定な状況も大きな課題である。	御意見のとおり、風水害を始めとする自然災害や新型コロナウイルス感染症の影響による価格低下等は農林水産業の振興を図る上で重要な課題であることから、農林水産分野の計画において、経営安定に必要な技術・経営面の支援に加え、農業保険制度等への加入促進等に取り組むこととしております。
3	県北	意見発表者	その他	事業を始めるにあたっての就農支援制度は50歳の年齢制限があるため、県独自で年齢の引き上げを考えてほしい。また、補助金を受けて営農をスタートした人が補助終了後も継続できるよう中長期的なフォローアップが必要である。	就農支援の県独自制度につきましては、御意見として賜ります。 中長期的なフォローアップにつきましては、農林水産分野の計画において、地域全体で技術・経営面のサポートをする体制づくりを進め、新規就農者の定着率向上を図ることとしております。
4	県北	意見発表者	その他	農福連携の取組で、助け合うことの大切さを学ぶことができた一方で、障がい者にも可能な作業のリスト化の提示が課題であると感じた。	御意見のとおり、農福連携に取り組む農業経営の拡大や受入体制の整備が必要であることから、障がい者が取り組みやすい作業工程の周知に向け、関係機関・団体と連携し、細分化した作業工程資料の作成を進めているところです。
5	県北	意見発表者	その他	スクールカウンセラーなどの専門家が配置されるようになり、子どもたちにとって良い環境が少しずつそろってきている。	—
6	県北	意見発表者	その他	子どもたちは学校だけでなく地域で育てていきたい。行政が間に入り、民間と地域が手を取り合うための民間に対する支援をしてもらえたらありがたい。	民間に対する支援につきましては、地域づくりの担い手の一員であるNPO法人の運営基盤の確立が重要であることから、法人の運営基盤強化のための各種講座の開催やNPO活動に関する専門家による相談・助言、NPO相互のつながりを深めるための情報交換会、交流会の開催等の支援を行うとともに、地域で支える子育て推進事業により、地域における子育てに取り組む市町村や民間団体を支援してまいります。 また、学校教育におきましては、「ひと」分野政策3施策4に記載のとおり、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「福島県地域学校活性化推進構想」の下、『学校を核とした地域づくり』に向け、地域(住民・団体・企業等)と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う地域学校協働活動を推進してまいります。
7	県北	意見発表者	その他	障がいを持つ大人が、家の中で引きこもり、親の死亡により顕在化することがある。そういう方の行き場となる受け皿的なものを社会資源として作るというも、民間でできることがあればやっていきたい。	—

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
8	県北	意見発表者	第1章 総合計画の基本的事項	福島県の子どもたちが、20年後、30年後に本県を支えるための政策が抜けている。	第4章 ひと分野 政策3 施策4「福島に誇りを持つことができる教育の推進」において、福島未来を担う人材の育成に引き続き取り組んでまいります。
9	県北	意見発表者	その他	保育所政策として作り過ぎた保育所をどうするのか。	施設が過剰となっている市町村において、施設の利用促進にどのように取り組んでいくのか市町村の対策を踏まえながら、県として必要な支援をしてまいります。
10	県北	意見発表者	その他	子どもの発達や家庭生活は就学前にほぼ決まる。福島県の子育て、教育面で一番ネックなのは、配慮が必要な子どもの情報が共有されておらず、就学前後の連携が何もできていないこと。就学前、小中学校時期の子どもたちに向けた質の高い取組や体制づくりが必須である。	「ひと」分野政策3施策1の主な取組「①学校段階を見通した確かな資質・能力の育成に関する取組」に記載のとおり、幼少が連携し、資質・能力を育成するとともに、各研修会や教育課程編成会議等で質の高い取組に繋がるよう、内容の充実に努めてまいります。
11	県北	意見発表者	第6章 計画の推進のために	しっかりとした政策を組み立てられるよう、エビデンスをしっかりと踏まえていくことが大切である。	計画に位置付ける政策については、根拠に基づく政策立案の考え方を取り入れながら、計画策定後においてもPDCAサイクルを確実に実行し、事業効果を適切に評価することが重要であると考えております。
12	県北	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	人口減少は全国的な傾向であり、減少率をどう少なくするかが重要。	本県の人口減少は、出生数の減少、進学や就職等に伴う県外流出が震災前から続く厳しい状況にあります。目標を達成するには、行政だけではなく、県全体で一丸となって自然増対策と社会増対策に取り組む必要があります。 ふくしま創生総合戦略や福島県人口ビジョンに基づき、1人1人の思いを大切に、福島で生まれ、育ち、暮らすことを誇りに思える県づくりに取り組んでまいります。
13	県北	意見発表者	その他	活力ある福島県を作るために、人口減少を食い止める対策として、「人」という字の付く「住む」「仕事」「健康」の3つが大事だと考えており、今回の総合計画と合致している。	—
14	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	人が住むのに仕事(収入)は前提。都会での相談会で、若者のふるさと回帰志向が高まりつつあるのを感じるが、仕事が最終的な決め手となっている。県は受け入れをする本気度のある施策を打ち出してほしい。	Uターン若者の支援につきましては、県内企業の魅力を十分に伝える必要があることから、ガイドブックやPR動画、SNSを活用して若者に届く情報発信に努めるとともに、東京に設置した就職相談窓口におけるきめ細かな相談やマッチング支援を行っております。 また、インターンシップや合同企業説明会を通して学生等が企業と出会う機会を創出するほか、県内就職を促す奨学金返還支援事業等により、引き続き、若者の県内への就職促進に取り組んでまいります。
15	県北	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	具体的な移住施策が、総合計画では見えないため、具体的に予算と人と実効性のある事業を打ち出してほしい。	総合計画においては、情報発信や相談体制の充実など方向性を定めており、この方針に基づき具体的な事業を展開してまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
16	県北	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	総合計画で、この災害からの復興が福島が一番の課題と位置づけていることには納得。トリチウムの海洋放出によるさらなる風評被害が心配であり、自然も人も健康的な、そして安全な福島県を作り上げてほしい。	処理水の処分方針決定は、復興にとって重い課題であると認識しております。政府には、国内外への情報発信と共に、万全の風評対策を引き続き求めてまいります。県としても地域の魅力の発信、農林水産業や観光業の振興に一層力を入れ、風評の払拭に努めてまいります。 また、防災や原子力発電所周辺地域の安全確保、生活環境の保全等に係る各種施策を推進し、引き続き安全で安心な県づくりに取り組んでまいります。
17	県北	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	16ページの「さらに」と「更に」の違いについて、使い分けしているのか。	接続詞として使用する場合は「さらに」を、副詞として使用する場合は「更に」を用いています。
18	県北	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	SDGsの達成と福島の将来の達成がイコールでないという、総合計画とSDGsの関係性については理解した。そうであれば、SDGsのイメージが強すぎるので、県民の方が誤解しないような書きぶりに変えてみてはどうか。	SDGsの視点で将来の姿を整理する意義としては、様々な主体との連携・協働の機会が得られることが期待できること、SDGsから逆に学ぶことによって人口減少・高齢化など多くの課題を抱える自治体が課題を克服するための新たな切り口として活用できることの2つがあると考えております。 世界の共通言語ともなっているSDGsというフィルターを通して本県の将来の姿を改めて整理することで、本県への理解促進や新たなコラボレーションの創出、さらには人口減少などの普遍的な課題解決の促進につなげてまいります。
19	県北	意見発表者	その他	新たな総合計画では、風化という意識をどこまで持った戦略になるか。	第4章 暮らし分野 政策1 施策8「風評・風化対策の強化」において、「②震災の記憶や教訓を後世に伝承し、国内外に発信する取組」を掲げており、震災の記憶と教訓を後世に伝承するとともに、国内外に効果的に情報発信していくことで風化の防止に努めていくこととしています。 また、本県への応援意向が低下しないよう、福島のと魅力の発信や県内外の企業・自治体等との連携にも積極的に取り組んでまいります。
20	県北	意見発表者	その他	高校生が身につけてくる能力が問題。卒業までに専門的な教育を受けられる環境を充実させて欲しい。地場産業の話と絡めて、専門的な教育ができる環境が作れたら一番良い。	「ひと」分野政策3施策4の主な取組「②福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成に関する取組」に記載のとおり、地域や地元企業と連携し、地域の専門技術を有する人材を外部講師とする特別授業を行うなど、将来の福島の産業を支える人材の育成を進めてまいります。
21	県北	意見発表者	その他	定住に関し、やはり働き口があって、その他に教育、医療などがしっかりしていないとなかなか難しい。医療体制と公共交通機関の整備も同時並行で考えてほしい。	「ふくしま創生総合戦略」において、「魅力的で安定した仕事をつくる」、「暮らしの豊かさを実感できる地域をつくる」を基本目標として掲げており、これらに基づき仕事の創出や生活環境の整備等に関する取組を実施しております。
22	県北	審議会委員	その他	新たな総合計画は、県民と県の一体感が出てきて、9年くらい前よりもすぐ進化しているという気がする。	—

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
23	県北	審議会委員	その他	風評・風化について、東京で5、6年前に仕事で話をしたときに、福島に対する捉え方の割合は、あそこに原発がある限り変わらないと思う。そこも受入れて、何か県として考えていければいいと改めて思った。	国の責任において、廃炉作業を着実に進展させるとともに、廃炉の状況を国内外に丁寧に伝えるよう求めてまいります。 また、県としても農林水産物の安全・安心に向けた取組や品質の高さ、地域の魅力を積極的に伝えていきます。
24	県北	審議会委員	第1章 総合計画の基本的事項	20年後の計画をつくっているのであれば、子どもたちが20歳になった時、幼稚園児・小学生が20代、30代になった時のことを真剣に考えるべきである。	将来の姿を描くに当たっては、小学生から大学生を対象にワークショップを開催するなど、多くの県民の皆様の意見も聞きながら「世代を超えてつなぐ“ありがたいふくしま”」をイメージし、基本理念や基本目標を決定してまいります。
25	県北	審議会委員	その他	総合計画を県内で対話しながら作ってきたということ。前提として素晴らしい。	—
26	県北	審議会委員	その他	県の中で一番大きな組織である福島県が、どの組織よりも率先してその理想の未来に向けて仕事をするということを実現・実践できると、企業や高校といった現場に落ちていくと思う。	本県が目指す将来の姿として、“「ひと」「暮らし」「しごと」が調和しながらシンカする豊かな社会”を掲げており、実現のためには、県のみならず様々な主体と力を合わせて取組を進めることが重要です。 まずは県において職員一人一人の意識改革と行動変容を促進し、事業の先にある将来の姿の実現を常に意識しながら業務にあたることで、計画を戦略的かつ着実に推進してまいります。
27	県北	審議会委員	その他	このビジョンの実現を誰が担うかということを考えるべきである。現場の県民の努力に任せるのではなく、もう既に実践している方がいるのであればそれを評価する、機能していない現場があるのであれば、コーディネート機能を持った人材の配置をするなど、ぜひ進めていただきたい。	総合計画は、県民の皆さんを始め、本県で活動する様々な主体が本県の目指す将来の姿を共有し、県づくりを進めるための指針となるものであり、その実現のためには、それぞれの役割のもと、力を合わせて取り組んでいくことが必要です。 各主体が自ら考え、自ら行動し、地域づくりを行えるよう、県としてもあらゆる主体との連携・協働を積極的に進めるとともに、地域課題の解決のため、地域の実情を踏まえた施策を推進します。
28	県北	意見発表者	第6章 計画の推進のために	大前提となる財政の部分は、計画の中でどう位置づけられ運動していくのか。財政ありきで取り組むこととなると思うので、財政の状況を見ながらやるのであれば、優先順位をしっかりとつけるべき。	御意見のとおり、計画の着実な推進のためには、予算の重点化、効率化が必要であると考えます。 限られた行政資源の中で、復興・再生と地方創生の推進のため、特に重要な行政課題を「重点プロジェクト」として展開し、重点的に取り組んでまいります。
29	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	中山間地域での農業は、大型の機械の導入によるスマート農業をするには難しい環境にあり、また最近の自然災害、霜、ひょう、水害などで悩みながらも頑張る小さな農家がたくさんある。 担い手の確保もままならない傾向にあるが、その中でもその土地ならではの生き残りをかけて頑張っている。小さな農家に向けて、農業を維持するための機械の導入や技術の開発支援などをこれからも引き続きよろしくお願ひしたい。	第4章 しごと分野政策3「もうかる農林水産業の実現」において、技術・経営面での支援や研修制度の充実、省力技術の開発等を通じ、担い手の確保と育成に取り組んでいくこととしております。引き続き、農家の皆様の経営安定に向け支援してまいります。



No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
30	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	想定外のゲリラ豪雨が昔から比べて増えている。国土強靱化というのもスピード感をもって進めていかなくてはいけない。また 道路の整備というのも非常に重要ではあるが、これからは作る事よりも維持・メンテナンスという部分、現状のものを長く補修して使っていかなければならない。長寿命化という部分が本当に重要になってくる。	道路における橋梁やトンネルの長寿命化については、「暮らし」分野政策2施策7「老朽化した社会基盤の長寿命化対策・維持管理に関する取組」に基づき、計画的な維持管理を推進していきます。
31	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	建設・土木業に従事してくれる人を増やしていくのが重要。維持メンテナンスという部分でも、最終的には人がいないとできないので人材確保は最重要課題。	地域の守り手である建設業の担い手の確保については、重要な課題と認識しており、「しごと」分野政策6「福島の産業を支える人材の確保・育成」等に基づき、建設業における担い手の確保に取り組んでまいります。 なお、県の建設業振興施策の基本計画である「ふくしま建設業振興プラン」においても担い手確保に関する施策を定めており、様々な取組を実施してまいります。
32	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	建設業の住宅建設部門でも、若い担い手、大工がおらず、入社してもすぐに辞めてしまう。危機的な状況であり、5年後10年後も見通せずどうしたらいいのかかわからない。物を作る側としては人がいないと何ともならないので、人材を確保するための補助であったり、どうやって技術を残していくのか解決できるとありがたい。	地域の守り手である建設業の担い手の確保については、重要な課題と認識しており、「しごと」分野政策6「福島の産業を支える人材の確保・育成」等に基づき、建設業における担い手の確保に取り組んでまいります。 なお、県の建設業振興施策の基本計画である「ふくしま建設業振興プラン」においても担い手確保に関する施策を定めており、様々な取組を実施してまいります。
33	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	教育旅行について、震災後の取り組みについて学びたいということで来るが、県外の中高生向けの震災からの経緯が説明できるような資料があればいいと思う。	関係機関の協力のもと、震災発生時から現在の状況までをまとめた冊子「福島あの日からいま」を作成しており、ホープツーリズムに参加する中高生の事前学習や当日のテキストとして活用いただいております。学びを深める資料として、引き続き活用を図ってまいります。
34	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	天栄村の湯本中学校でアントレプレナーシップ教育(子供たちに起業家精神を教える取り組み)をやっている。生徒が二人だからできるのかもしれないが、いろんな中学校でこういったことやっていると子ども達の未来や地元に残るといことに繋がっていくと思う。	「ひと」分野政策3施策4の主な取組「③地域社会と学校が一体となって子どもを育てる取組」に地域課題探究学習の推進による郷土理解の促進等について記載しております。 また、「ひと」分野政策3施策1の主な取組「②複雑な社会の課題を主体的に解決する力の育成に関する取組」において将来の社会的・職業的な自立に向けてキャリア教育を充実するとともに、本県の産業を支える人材を育成するための産業教育を充実してまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
35	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>福島空港について、震災やコロナの影響もあって空港が閑散としているのが寂しいところ。スポーツエリアや野外エリアもあり、すごく魅力的な施設なのでそこをうまく広められないのかと思っている。利活用の幅を広げて色々な団体が気軽に利用できる場所になりたい。市民が気軽に行けて活用できる場所になれば、もっと愛着も沸いて交流が生まれる拠点になるのではないかな。</p>	<p>第4章 しごと分野 政策7 施策2において福島空港のにぎわい創出について記載しているところであり、福島空港に親しみを持ってもらうため、地域コミュニティの拠点としての空港の利活用を促し、空港周辺の賑わい作りに取り組んでまいります。</p> <p>また、福島空港公園については、第4章 ひと分野 政策5「福島への新しい人の流れづくり」に基づき、住民にやすらぎや潤いを与える緑豊かな都市公園の利活用を推進していきます。</p>
36	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>P54健康長寿について、最近、本県でも慢性心不全がすごく増えてきている。少しずつ心臓が弱っていき、やがて亡くなる病気。自分がどうい風風に最後まで生きたいのかという意思を地域でわかって、それを叶える方針があればいいと思う。県で循環器病対策推進協議会が立ち上がったので、そういうところから広まると良いと思っている。厚生労働省でも「人生会議」という取り組みが行われている。どこで人生を終えたいのか、そういった思いをきちんと願いを叶えてあげると言うことが大切。この視点を総合計画にも入れこむといいのではないかな。</p>	<p>県では、自らが望む形で人生の最後を迎えられるよう、あらかじめ治療等に関する意思表示を記載するエンディングノートの普及推進等を行うこととしております。</p> <p>御指摘を踏まえまして、今後とも、福島県民の方々が、自らが望む人生の最終段階の医療等を受けられるよう、在宅医療の推進等の取組と併せて取り組んでまいります。</p>
37	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>P54施策3 高齢者の介護予防の強化について 「通いの場」は地域の中でサロン化してやっているところもある。三春町では、100歳体操をやるために集まるサロンがあって、町内だけで34箇所の通いの場がある。 運動や多世代交流や健康相談にも活用できるので、通いの場だけではなくて、いろんな施策をここに取り込んで行くと広がっていくのではないかなと思う。</p>	<p>通いの場への参加促進をするとともに、運動・社会参加の場・見守り・生きがい・支え合いなど、通いの場の活動を通して、高齢者だけでなくすべての県民がいきいきと自分らしく暮らせる地域づくりを目指してまいります。</p>
38	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>P54施策3 高齢者の介護予防の強化について 地域包括ケアシステムの記述があるが、そもそも知らない方も多いので解説が必要だと感じた。また、地域包括ケアシステムは介護予防ばかりではなく、地域で支えることが大事。高齢者を支える地域の人には子どもや障がい者や働く人など様々だが、逆に、そういう人たちを農業や地域づくりで高齢者が支える立場になったりもする。高齢者に生きがいを持ってもらい、色々活動できる仕組みがあるといいと思う。</p>	<p>地域包括ケアシステムの解説を追記いたします。御意見のとおり、地域包括ケアシステムについては、地域で支えることが大切であると認識しております。県として、引き続き地域包括ケアシステムの構築を推進するとともに、高齢者の社会参加、生きがいづくりに引き続き取り組んでまいります。</p> <p>※地域包括ケアシステム：高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう高齢者のニーズに応じて、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なく提供するシステムをいいます。</p>

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
39	県中	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	P79、80のロボットの医療と介護の現場での活用について。実際現場でもやっつけているが、ロボットは取り付けが大変で時間もかかる。介護の現場は忙しいので、これをつける時間がなかなかない。値段が高いという問題もある。どちらかと言うと介護する側ではなく、介護を受ける側の生活の質の向上に繋がるロボットだということ。	介護ロボットやICTの利便性の向上も図りながら、それらの導入を推進することで、介護現場における業務効率化が促進されると考えております。業務効率化が促進されることにより質の高いケアが提供され、介護を受ける側の生活の質の向上にも繋がると考えております。
40	県中	意見発表者	その他	計画全体について 色々な柱があって施策がつけられているが、縦割りで考えると矛盾が生じる。1つの管轄では対処しきれないことも増えているので、県にはしっかり横串をさす仕組みづくりをしていただきたいと思う。	社会情勢や社会環境が多様化・複雑化している現状を踏まえ、全庁的に共通する重要課題の設定と共有を図り、部局長から担当職員に至るまで、経営的視点をもって部局横断的に取組を進めてまいります。
41	県南	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	少子高齢化で、全体的な人口が減り、働き手がいまいと言われている。64歳までが生産年齢人口と記載があるが、私も含め、65歳以上でも働いている方が結構いる。年金の問題もあると思うが、生産年齢の定義はもう少し上でもよいのではないかと。	生産年齢の定義につきましては、統計上の定義であります。改正高年齢者雇用安定法において定年が70歳まで引き上げられたことも踏まえ、今後の取扱いを注視してまいります。
42	県南	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	子どもが学校を卒業してからの人材育成ではなく、生まれた時からの関わりで育むということがとても大事である。 県生涯学習課の事業でジャーナリストスクールという非常によい事業があるが、地元開催の年度のときでも県南地域の子どもの参加が少なかった。県南地域の多くの子どもたちが参加できるようにしてほしい。	ジャーナリストスクールは毎年開催しており、例年県内全域を対象に受講生を募集しております。 今後も、ポスター・チラシを県内全校に配布するとともに、インターネットも活用しながら周知に努めてまいります。
43	県南	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	県の基本目標4案については、わかりやすさという点でひらがなが良いのかもしれないが、ひらがなが多すぎると目がいくところがない。福島県の豊かさとかおいしいものがたくさんあるとか、優しさとかは非常によく分かるが、基本目標としては少し優しいという感じがして、何か一つ強さがあるようなのが入ると、さらに福島県として発信する力強さみたいなものがあり、優しさも引き立つ。	基本目標につきましては、皆様の御意見を踏まえた上で、総合計画審議会にも諮りながら、引き続き検討を進めてまいります。
44	県南	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	県の基本目標4案については、ひらがなばかりは少し弱い。何でもかんでも盛り込むと見えなくなるため、どこかに焦点をしぼって、そこを一点突破の方がいい。	基本目標につきましては、皆様の御意見を踏まえた上で、総合計画審議会にも諮りながら、引き続き検討を進めてまいります。
45	県南	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	県の基本目標4案については、子どもから高齢者まで誰でも、文字の易しさから入っていけること考えると、ひらがなで表記するのがいい。	基本目標につきましては、皆様の御意見を踏まえた上で、総合計画審議会にも諮りながら、引き続き検討を進めてまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
46	県南	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	<p>県の基本目標4案については、案に対して補足を付け加える話があったが、説明書などに※で小さいく書いてあって読まないで、一発で分かるようなものがない。</p> <p>やさしさやすこやかさ、おいしさとあるが、この施策を実現するためには、俊敏さや速さも必要である。</p> <p>小学生から読めるような地域誌を作成しているが、あえて難しい漢字を使い、「これって何て読むの？」と聞くことで人との関わりが芽生えたり、辞書を引く行為にもつなげようとしている。</p>	<p>基本目標につきましては、皆様の御意見を踏まえた上で、総合計画審議会にも諮りながら、引き続き検討を進めてまいります。</p>
47	県南	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	<p>県の基本目標4案については、漢字よりはひらがなのほうが、よく頭にいられて読む気持ちになる。</p> <p>同じ文言が重複しているため、目的とする新鮮さが薄れて同じような意味合いかなという印象がある。色んな意見を集約してあれもこれもとなるので、まとめる方の大変さは分かるが、少しばっさりやらないといけないという印象を持った。</p> <p>例えば、自分たちは、「顧客に認められて感謝されて、必要とされるものづくりでお客様が喜んで、我々が喜ぶ。」ことを目指して活動している。そういう起承転結で、福島県をみんなで盛り上げていきたいと思いますところにつながると、はっきりと頭にイメージができる。</p>	<p>基本目標につきましては、皆様の御意見を踏まえた上で、総合計画審議会にも諮りながら、引き続き検討を進めてまいります。</p>
48	県南	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	<p>県の基本目標4案については、②は長い。</p> <p>やさしさやすこやかさ、おいしさは全県民に共通しているが、ふるさとを取り戻すというのは、浜通りの人に特化したものと感じる。</p> <p>全部の地方に対しての配慮が感じられるため、もう少し簡潔でよい。</p> <p>県民全部に統一した意識を持たせるような感じでもよい。</p>	<p>基本目標につきましては、皆様の御意見を踏まえた上で、総合計画審議会にも諮りながら、引き続き検討を進めてまいります。</p>
49	県南	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>小さいときから地域の魅力を知っていることが非常に大事である。それが人口流出の歯止めにもなる。</p>	<p>県づくりの理念の一つに「魅力を見いだし育み伸ばす地域社会(県)づくり」を掲げており、地域の魅力や価値を見つめ直し、次世代に繋げていくことが「ふくしまの将来の姿」の実現に向けて必要不可欠であり、人口減少の歯止めにもつながるものと考えております。</p> <p>第4章 ひと分野 政策3 施策4「福島に誇りを持つことができる教育の推進」において、福島の未来を担う人材の育成に引き続き取り組んでまいります。</p>
50	県南	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	<p>生まれ育った町にどんな企業があるか、イメージできるようにガイドブックを作成している。人口減少を抑制するため、まずは流出する人口を抑えたいという気持ちで地元企業への就職を進めている。</p>	<p>県づくりの理念の一つに「魅力を見いだし育み伸ばす地域社会(県)づくり」を掲げており、地域の魅力や価値を見つめ直し、次世代に繋げていくことが「ふくしまの将来の姿」の実現に向けて必要不可欠であり、人口減少の歯止めにもつながるものと考えております。</p> <p>第4章 ひと分野 政策3 施策4「福島に誇りを持つことができる教育の推進」において、福島の未来を担う人材の育成に引き続き取り組んでまいります。</p>



No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
51	県南	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	コロナで世界中大変だと言われるようになって、自分で長年続けているものづくりに関する小中学校の講師は例年どおり行った。自分の生業や学校関係の活動も含めて、人付き合いや、人材の確保、人材を育てるための指導者の育成などが、これまでどおり大事だと改めて感じた。特に、人材の確保は非常に重要で、男子女子問わず、子どもたちを育てていきたいと一層強く思えるようになった。	地域と学校の協働につきましては、「ひと」分野政策3施策4の主な取組「③地域社会と学校が一体となって子どもを育てる取組」に記載のとおり、幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「福島県地域学校活性化推進構想」の下、『学校を核とした地域づくり』に向け、地域（住民・団体・企業等）と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う地域学校協働活動を推進してまいります。 人材確保につきましては、ガイドブックやウェブサイトを活用して県内企業の魅力発信に努めているほか、合同企業説明会やインターンシップを通して学生等が企業と出会う機会を創出するとともに、県内及び東京の就職相談窓口における就職相談や職業紹介により県内企業への就職を促進しており、引き続き、企業情報の積極的な発信やきめ細かなマッチング支援を行うなど、本県産業を担う人材の確保に取り組んでまいります。 ものづくりに関する人材育成につきましては、テクノアカデミーによるものづくり体験の実施や関係団体等が主催するフェア等を支援することで、子ども達へものづくりの楽しさや大切さを伝えてまいります。 併せて、技能検定制度を促進していくことで指導者の育成を図ってまいります。
52	県南	審議会委員	その他	我々高齢者はアナログなので、電話をかけてコロナワクチン接種の予約をとろうとしたが、つながらず、孫にスマホで予約してもらった。何でもかんでもデジタル化はやむを得ないと思うが、我々のような時代にマッチしないものもこの総合計画の案にに入れてほしい。	デジタル変革の推進に当たっては、対面に代表されるアナログ的手法とデジタル技術を活用した手法の組み合わせの最適化を図るとともに、デジタルデバйд対策にしっかりと取り組んでまいります。
53	県南	審議会委員	その他	コロナが終息したあと、経済がどう動いていくのか、行政側もその先を見越した動きをしてほしい。自宅仕事ができるような時代になり、経済が動かない。県が柔軟性をもって、その時々にあった改善をしてほしい。	施策の推進にあたっては、政策・施策の達成度を適切に測ることのできる指標を設定し、「成果の見える化」に取り組むことで、実効性の高い事業の構築に繋げてまいります。
54	県南	審議会委員	第6章 計画の推進のために	県の総合計画を実践していくのは、地元の市町村や地元企業なので、連携を大事にしていくのが重要だということを改めて感じた。	総合計画は、県民の皆さんを始め、本県で活動する様々な主体が本県の目指す将来の姿を共有し、県づくりを進めるための指針となるものであり、その実現のためには、それぞれの役割のもと、力を合わせて取り組んでいくことが必要です。 各主体が自ら考え、自ら行動し、地域づくりを行えるよう、県としてもあらゆる主体との連携・協働を積極的に進めるとともに、地域課題の解決のため、地域の実情を踏まえた施策を推進します。
55	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	第4章について、政策と施策という言葉があるが、だいぶ似ているので混乱する。また、施策にはもう少し具体的な記載がほしい。第4章の施策と第5章の会津地域の施策が必ずしも関連していないので、関連させてほしい。	施策におけるより詳細な取組については、総合計画に紐づくそれぞれの分野別の計画において記載してまいります。 地域別の主要施策と計画全体の主要施策の分類については、御意見のとおりその整合に配慮する視点も重要であると考えており、第5章の冒頭に『「ひと」「暮らし」「しごと」の各政策分野に配慮して施策を構築する』旨記載しております。
56	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	第4章ひと分野の政策2施策1について、会津地域は青少年保護がしっかりしているので、しっかり大事にしていってほしい。	青少年の健全な育成を推進するため、社会環境の整備に努めるとともに、有害図書等に関する規制や携帯電話のフィルタリングの利用促進等を推進するなど、引き続き青少年保護対策を進めてまいります。
57	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	政策3施策1について、多様性に根差した教育の推進。会津学鳳高校をもっと特徴のある学校にしたらどうか。会津学鳳は留学に強い。会津高校は国内進学に強い、など。	県立高等学校改革前期実施計画に基づき、各学校において生徒や地域の実態に応じて特色ある教育活動を進めているところであり、今後その取組を継続、発展させてまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
58	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	政策3施策5文化財保全について、県と市町村がそれぞれ持つべき役割など整理してほしい。文化庁、県文化財課、市文化課があるが、この垂直関係が硬直化している。このあたりの硬直性について、整理していただく必要があるのではないかと。	国、県及び市町村はイコールパートナーであり、それぞれ全国的な視点、広域自治体としての視点、基礎的自治体としての視点から文化財保全についても役割を分担し、県内所在の文化財について保存と継承を図っております。
59	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	政策4施策3について、「女性の登用及び人材育成」とあるが、これは順序が逆ではないか。「女性の人材育成及び登用」だと思う。	女性の活躍できる環境づくりには女性の登用が進められることが重要であることから、「登用」を先に記載しています。
60	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	政策5施策1について、受け皿として県内のキーパーソンを見つけることが大事なのではないか。県内のキーパーソンと外のキーパーソンがうまくつながることで、ものごとが動いていくのではないかと。	御指摘の点につきましては、同政策5施策2の「②移住・定住に係る受入体制の整備」に記載しており、関係人口から移住・定住につなぐ役割も含めてキーパーソンと連携して進めていくこととしています。
61	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	政策5施策2について、会津の幼稚園では、自然の中で子どもを育てることができ、とても素晴らしいと思う。例えば、幼児教育を会津で受けさせ、学校教育の段階になると東京などに帰っていくようなスタイルも想定できるのではないかと。	御意見のとおり、幼児教育における環境は重要なものであると認識しており、自然を含め教育環境の創造は、子どもの学びの質を高める上で大切であると考えております。 自然あふれる環境での幼児教育など、福島ならではの魅力について、積極的に情報発信してまいります。
62	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	暮らし分野の政策2施策4について、働き方改革とは言われているが、今のマンパワーではカバーできない。警察官を増やすことも検討していかないと県民の要望には応えていけない。	地方警察官増員については、警察庁が主体となって検討しておりますが、県警察においては、IT技術の活用によるデジタル化を促進するなど、業務の効率化・高度化を図ることで、引き続き、県民の安全と安心の確保に向け取り組んで参ります。
63	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	政策6施策4・5について、県に文化・スポーツ振興局を作ったときに、「文化・スポーツを通じて交流人口が増えるだろう」という趣旨があったはずだが、これが今となってはすっぱり抜けてしまっているのではないかと。	暮らし分野 政策6 施策4に記載のあるとおり、全国大会である声楽アンサンブルコンテストを実施し、広域的な文化の交流を促進します。 また、暮らし分野 政策6 施策5におけるオリンピック・パラリンピックのレガシーに関する取組については、大会を契機に生まれた多様な主体による共働の取組を交流人口の拡大につながるレガシーとして継承することを目指します。 ひと分野 政策5 施策11において、東日本大震災伝承館を起点のひとつとした交流人口の拡大を目指し、伝承館来館者数を補完指標として設定しています。
64	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	しごと分野の政策1施策2について、会津塗の価値の再発見。外の伝統工芸関係者からも評価されており、技術的に非常に質が高い。	—
65	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	政策5施策2・3について、インバウンドに関連して免税店を運営しているが、オンライン化される流れになっている。そうすると、来客があるかわからないまま中間マージンのみ払い続けなければならない。これはぜひ県全体として、支援を検討してほしい。	免税販売手続きの電子化に係る環境整備につきましては、国の支援事業を活用することができます。 県といたしましては、個別の支援事業につきましては、御意見を参考に検討させていただきます。
66	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	東北のブランド化が必要ではないか。日本の中に東北ブランドがあり、その中に会津ブランドがある、という絵があると良い。	これまでも東北各県や東北観光推進機構と連携して、東北の観光地としてのブランド化に取り組んできたところであり、引き続き各県等と連携して広域的な周遊ルートの発信等に取り組んでまいります。 会津地域のブランド化につきましても、市町村及び関係団体等の取組と連携して、会津ならではの地域資源をいかした滞在型観光・広域周遊観光を推進してまいります。
67	会津	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの未来	基本目標「やさしさ、すこやかさ、おいしさ」というのは今の福島県にぴったりな目標だと感じた。	—

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
68	会津	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	第3章に風評払拭・風化防止対策の強化とあるが、原発事故から10年経つが、いまだに風評被害は払拭されていないというのが現状。私たち生産者は常に出荷しているわけで、いまだに原発補償をいただいで生産している。風評被害の払拭をどのような形で力を入れているかを詳しく書いてほしい。	風評を払拭するためには、長期にわたる粘り強い取組が不可欠であります。県としても、トップセールスや県産品フェアの開催、観光キャンペーンの実施など、様々な取組を行ってきたところであり、今後はこれらに加え、高い品質のものを安定して供給していくための生産力の強化が大切と考えております。第4章の関連施策においてブランド力、産地競争力の強化を目指していくことを記載しており、風評払拭に一層力を入れてまいります。
69	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	第4章しごと分野において、「GAP等認証の活用などにより、持続可能な農業生産が進み、県産農産物の信頼性が確保されている」とあるが、実際のところ、消費者はGAPの意味をほとんど分かっていない。市、J A、県の方で、GAPとは何かについての説明に力を入れてほしい。	第4章しごと分野 政策3 施策4「⑤産地競争力の強化に関する取組」でGAP等認証を活用したPR等について記載しているところですが、引き続き、消費者・実需者等への認知度向上に向けた取組を推進してまいります。
70	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	第4章暮らし分野の政策2施策4③消防団員の確保に関する取組について、消防団員の確保は今問題になっている。学校教育のうちから子どもたちに消防団のことを理解してもらう必要がある。平成25年に消防団が中核となる地域防災力の充実強化という法律が制定された。その中に、学校教育との連携という文言があるので、その一文をここに加えるべき。	消防団員の確保に当たっては、学校教育に限らず、幅広い層の加入に向けた取組や理解を促進する必要があることから、「女性や若者の入団を図る取組の促進」として追記いたします。学校教育の場においては、発達段階に応じ、あらゆる機会を通じて防災についての理解と関心を深めることができるよう、取り組んでまいります。
71	会津	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	第3章にひと・暮らし・しごとの調和とあるのに、施策の中で調和という言葉がないため不自然。コミュニティスクールなど、学校教育との連携という意味でも、調和という言葉ぜひ加えてほしい。	施策については、ひと・暮らし・しごとの3つの分野に紐づくものであり、調和について意識しながら具体的な取組を記載したものであるため、原案のとおりといたします。
72	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	第4章しごと分野において、喜多方ラーメンのような既存ブランドの保護という言葉がない。喜多方ラーメンも経営者の高齢化等により、ブランド存続の危機に瀕している。ラーメンだけではなく、既存ブランドの保護についても記載してほしい。	県産品のブランド保護のためには、県産品のものづくりに関する高い技術力をしっかりと継承し、品質を更に向上させることが重要であることから、産地や地域と連携をはかりながら、県産品の技術継承や品質向上に取り組む、その方策について今後検討させていただきます。
73	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	政策3施策3において、農業に関して、農産物輸出等を書いてあるが、環境の点でプラスチック等との兼ね合いもある。ライスレジンという、米から作るプラスチックも出てきている。今は米バブルの時代なので、県の方でも新しい産業に移行するなど、農家の所得を守るという点でそういう施策もお願いしたい。	農家(稲作)の所得確保につきましては、米の消費量が減少し続ける中、需要に応じた米生産の取組が重要であることから、農林水産分野の計画において、御意見にある輸出への支援に取り組むとともに、水田を活用した非主食用米や大豆等の計画的導入等の取組を通じ、農家の経営安定を支援することとしております。ライスレジンなど新たな産業への支援につきましては、新製品・新技術の開発、調査・分析、販路開拓等の費用の助成などにより、革新的なものづくりに対する技術開発を促進してまいります。なお、取組については、現在策定中の部門別計画である「次期福島県商工業振興基本計画」にて記載する予定です。



No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
74	会津	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	観光の視点で風評について、もう10年経つが、多大な損害を受けているのはおそらく第1次産業である農林水産業と観光など。どちらも、域外の方に提供する、届ける、招くという意味で輸出型産業と言える。域外の方が、放射線に関して科学的理解してくれるようにしたいのはもちろんだが、そのためには域内の、県内の方が放射線に関する理解、安全安心の徹底を図っていく必要がある。	御意見のとおり、県産農林水産物の安全確保に関する取組は継続する必要があることから、暮らし分野政策1施策2において、放射性物質への対策と検査・情報発信に取り組んでまいります。 また、きめ細かな環境放射線モニタリングを引き続き実施し、正確なデータを分かりやすく発信するとともに、福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」の展示や体験研修等により来館者への放射線に関する正確な理解の促進を図ってまいります。 放射線教育については、ひと分野政策3 施策4において記載しており、義務教育段階では、指導資料等を作成し、児童生徒が、放射線に関する知識を身に付け、自ら考え判断し行動できる力や科学的根拠を基に自分の言葉で情報発信できる力を育成しております。 高校段階においても、文部科学省の「放射線副読本」を1学年の生徒に配布し、放射線への理解を啓発しております。
75	会津	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	県内の方が不安を抱いていれば、県外の方も不安になるのは当たり前。国や東電に任せるのではなく、私たち自身が風評に向き合い、立ち向かっていかなければいけないと思う。観光の基盤は、第1次産業の産物。風評払拭は非常に重要。	引き続き、風評・風化対策強化戦略に基づき、国、市町村等と連携し、「正確な情報」と「知識」を併せて伝えることで、不安の解消に努めてまいります。 また、農林水産物の販売促進等に加え、生産力の強化、観光地の魅力の更なる発信に向け、県民や市町村、関係団体等、オールふくしまで風評払拭に取り組んでまいります。
76	会津	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	国の政策とのリンクが重要だということ。もちろん復興は大切だが、新しい潮流、例えばデジタル庁、ギガスクール構想、国立公園の活用などとの関連付け。DXを見ても、内容がまだ薄い。県の計画をもとに、各市町村がより具体的に落とし込んでいくと思うので、広いレンジでとらえて作成してほしい。	御意見のとおり、新しい潮流も踏まえながら県の政策に反映していくことが大切であると認識しており、今般の総合計画においても地球温暖化対策やデジタル変革、新型コロナウイルス感染症対策等を盛り込んだところです。 デジタル変革(DX)の記載につきましては、国のデジタル化に係る最新の動向や福島県デジタル変革推進基本方針の内容を踏まえ、デジタル変革に係る内容を深めてまいります。
77	会津	意見発表者	第6章 計画の推進のために	長時間を割いて立派な計画ができるのに、実行されないという問題があった。今回の総合計画だと第6章がその部分にあたると思うが、具体的な事業への落とし込みをいかに行うかが重要かと思う。	御意見のとおり、計画策定後、着実に実行していくことが非常に重要であると考えております。 政策や施策の達成度を適切に測る指標を設定し、「成果の見える化」に取り組むことで、実効性の高い事業の構築に繋げてまいります。
78	会津	意見発表者	第1章 総合計画の基本的事項	立派な計画はあるものの、いざ住民の意見を聞くとそれがしっかり伝わっていないと感じた。特に子どもや子育てについて、プログラミング教育の環境等は充実しているが、現場の先生や親が困っているのは、子どもの肥満問題。どう対処して良いかわからない。そうした部分を具体的に解決していけると良い。	こどもの肥満問題については本県の課題であると認識しており、第4章ひと分野政策1及び政策3において食育や健康教育に関する取組を記載しております。 子どもたちが自らの健康課題を認識し、その解決に積極的に取り組める力を育成する「自分手帳」の活用を推進するなど、引き続き、積極的に取組を行ってまいります。 また、総合計画に紐づく教育分野の計画においても、健康教育に係る施策を定め、推進していくこととしています。



No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
79	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	子育てについては、移住しても子どもが遊べる場所がわからない、ない、という声が聞かれる。安心して子どもが遊べる場所が充実していると、移住者へのアピールにもなるし、会津に住んでいる人も外へ出ていかに会津の中で遊べるようになる。	県内の屋内遊び場について、県ホームページにおいて一覧表を公表しており、また屋内遊び場MAPを作成・配布しております。引き続き周知に努めてまいります。
80	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	観光客と地元民の意識のギャップを感じる。会津には観光地としてとても魅力が多く、外からの方はとても満足して帰り、何回もレポートで訪れる方までいる。しかし、地元住民にその魅力が伝わっていないし、地元住民が地元を楽しめるような具体的な施策があると良い。	新型コロナウイルス感染症の影響で、新たに国内旅行のトレンドとなったマイクロツーリズムを推進しており、市町村及び関係団体等と連携して、地元ならではの地域資源を生かした観光モデルの創出を支援してまいります。
81	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	第4章暮らし分野の政策3の冒頭に、「住み慣れた地域で県民誰もが安心して暮らし続けられるよう、医療・介護・福祉が連携した体制を整備していく必要があります」とあるが、安心して暮らしていける、というのがとても大きなポイント。	—
82	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	特に会津地域はかなり高齢化が進んでいるので、一度入院してしまうと、長期に及ぶと尚のことだが、筋力が低下して入院前のような生活を送れない方が多数出てきてしまう。	高齢者の介護予防は重要な課題と認識しております。今後の総合計画においては、第4章 ひと分野 政策1 施策3「高齢者の介護予防の強化」において、通いの場への参加を促進するとともに、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進してまいります。
83	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	施策2に「地域医療の維持・確保に関する取組」とあり、具体的に自宅に帰るための支援として在宅医療という言葉が入っていてもよかった。在宅で見てくれる医師・看護師が近くにいれば、前よりも多少歩けなくなっていたりしたとしても、自宅に帰れる環境づくりという意味で、ぜひ在宅医療という言葉を加えてほしい。	超高齢社会を迎える中で、在宅医療の果たす役割は大きいものと考えます。御指摘を踏まえまして、下記のとおり計画へ反映いたします。 【変更前】 ①地域医療の維持・確保に関する取組 県立病院の診療機能の強化や地域包括ケアの構築支援を進めるとともに、自治医科大学卒業医師などの配置、へき地診療所の運営支援、CATV、テレビ電話などを活用した在宅健康管理や遠隔医療の普及などにより、地域医療提供体制の整備を図ります。 【変更後】 ①地域医療の維持・確保に関する取組 県立病院の診療機能の強化や地域包括ケアの構築支援を進めるとともに、自治医科大学卒業医師などの配置、へき地診療所の運営支援、在宅医療、CATV、テレビ電話などを活用した在宅健康管理や遠隔医療の普及などにより、地域医療提供体制の整備を図ります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
84	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	県民一人一人が、自分がどこで生活したいのが、どこでどんな医療を受けたいのか、どこで最期を迎えたいのか等を考えるきっかけがなかなかないのではないかと感じている。県民一人一人が自分事として考え、日頃から家族等とそういったことを話しておけば、医療側も家族も本人の意思を尊重して対応しやすくなると思う。最近では、人生会議という言葉もあるが、もし可能であれば、福島県民にも自分の将来のことを考えるきっかけになるようなことを加えていただけるとありがたい。	県では、自らが望む形で人生の最後を迎えられるよう、あらかじめ治療等に関する意思表示を記載するエンディングノートの普及推進等を行うこととしております。 御指摘を踏まえまして、今後とも、福島県民の方々が、自らが望む人生の最終段階の医療等を受けられるよう、在宅医療の推進等の取組と併せて取り組んでまいります。
85	会津	審議会委員	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	福島県は人口203万人だったところから、10年間で182万人にまで減少した。これは全国ワースト1位。それを考えると、2040年に人口153万人を維持するというのはとても大きな目標。	本県の人口減少は、出生数の減少、進学や就職等に伴う県外流出が震災前から続く厳しい状況にあります。目標を達成するには、行政だけではなく、県全体で一丸となって自然増対策と社会増対策に取り組む必要があります。 ふくしま創生総合戦略や福島県人口ビジョンに基づき、1人1人の思いを大切に、福島で生まれ、育ち、暮らすことを誇りに思える県づくりに取り組んでまいります。
86	会津	審議会委員	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	住みやすくするとか、こどもや子育てをどうする、産業をどうする、農業をどうする、環境をどうする等、各分野で議論を重ねている。	—
87	会津	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	「儲かる農業」をどうするか、という議論がある。私個人としてはその言葉を残したいと思っている。以前懇談会の中で、農家の方から儲かる農業にしないと駄目になるという熱い意見もいただいた。儲ける農業はひとりのものだが、儲かる農業は全員でやらなければいけない。農業は観光の土台。地域の産業トップ3を見ても、観光や農業が出てこない。	農林漁業者が意欲とやりがいを持ちながら、必要な収入を得て経営を継続することができるよう、生産基盤の整備や生産力強化等につながる取組を支援してまいります。
88	会津	審議会委員	第1章 総合計画の基本的事項	どうしても反対意見に引っ張られてしまう傾向があるので、懇談会の中では肯定的な意見を大事にしていきたい。	—
89	会津	審議会委員	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	34頁の将来の姿について、「ひとが大切にされる」「安心・快適に暮らせる」「働ける場所(仕事)がある」とあるが、ある意味当たり前。全国最低限の平均値。文化財など地域が持つ資源をプラスアルファとして表現できないか。	県づくりの理念の一つに「魅力を見だし育み伸ばす地域社会(県)づくり」を掲げており、第4章の各施策においても、地域資源の活用について記載しているところです。
90	会津	審議会委員	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	32頁の理念には「魅力を見だし、育み伸ばす」とあり、むしろこちらを押し出した方が良いかもしれない。自然環境は子育て教育にもつながるという指摘もあり、いろいろな広がりがある。	3つの県づくりの理念についてはいずれも重要だと考えておりますが、審議会をはじめ多くの方から「寛容」が大切という意見を頂いており、一番上に掲げております。 御意見のとおり、地域の魅力や価値を見つめ直し、次世代に繋げていくことは「ふくしまの将来の姿」の実現に向けて必要不可欠であり、本県の復興・再生の推進や人口減少対策、風評・風化対策など様々な取組につながるものと考えております。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
91	会津	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	DXは今後の新しい産業につながる。たとえば観光で言えば、データをしっかり見て、エビデンスベースの観光につなげるなど。また、人口減少において地方自治体が生きていくためには、デジタル技術で機能をカバーしないと生き残っていけない。	商工業や観光、農林水産業の分野等、県政のあらゆる分野において、デジタル変革を推進し、新たなサービスの創出や生産性の向上等を図ります。 また、行政サービスにデジタル技術を積極的に活用し、公務効率の向上や付加価値の高い行政サービスの提供を図ります。
92	会津	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	医療もデータと通信環境が整っていなければ成り立たない。これはもはや社会インフラの話。ICT技術がインフラであるということを認識しなければいけない。県土の広い福島県が安心して快適な生活環境を整えるには整備が必要。	健康や医療、福祉の分野等、県政のあらゆる分野において、デジタル変革を推進し、新たなサービスの創出や生産性の向上等を図ります。 また、国と連携し、携帯電話や光ファイバ等情報通信基盤の整備を進めていきます。
93	会津	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	消防団員の不足について、教育とつなげて考えないといけないという御指摘があった。これには至極同意。イノベーションコスト構想が出てきたときに、人材育成と産業推進は整合性をとって行おうと合意形成し反映した。しかし、実際に進めるにはもう少し事例収集等行い精査した方がよい。	消防団員の確保に当たっては、学校教育に限らず、幅広い層の加入に向けた取組や理解を促進する必要があることから、「女性や若者の入団を図る取組の促進」として追記いたします。 地域の産業人材育成の推進につきましては、毎年、3地域において、各テクノアカデミーと産業界、教育機関、行政機関で協議を行い、人材育成の方向性を確認しております。 今後も、地域ニーズなどを検証しながら、地域産業を推進する人材の育成に努めてまいります。
94	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	経済ビジョンとして考える場合、観光入込客数が指標として一般的だが、観光が地域にもたらす経済効果、経済産出額を積極的に拾っていないと、観光は情緒的な部分が大いのでうまく説明がつかない。観光客がどれほど会津にお金を生み出したかや、どのぐらいの雇用を生み出したかなど、さまざまな波及効果を考えていくと、より具体的にどこに力を入れていけばよいかなどもわかってくる。	会津など地域ごとの経済効果の把握は困難ですが、全県における経済効果等の指標設定について観光庁の統計調査等や他県事例等を参考に検討してまいりたいと考えております。
95	会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	観光客と住民との意識のギャップという指摘(No.26)には同感。おそらく、観光が生み出した効果について数値化していないので何もわからぬ、ということがあるのではないかと。よそからいろいろなものが持ち込まれてきて、自分のところでも対応しなければいけないという地元の負担感がまず先にきてしまっている。そのため、必ずしも観光産業がもともと持っているポテンシャルをうまく使えていない、というのが一番の問題点かと思う。観光の数値化が大事。	観光が生み出した効果につきましては、観光庁の統計調査等や他県事例等を参考にして数値化について検討してまいりたいと考えております。
96	南会津	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	p33の基本目標について、すべてひらがなは、イメージしにくい。	基本目標につきましては、皆様の御意見を踏まえた上で、総合計画審議会にも諮りながら、引き続き検討を進めてまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
97	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	建設業は条件も悪くないはずだが、若い人が入ってこない。建築関係の学校も郡山に日大はあるが、南会津まで来てもらえない。除雪オペレーターの数も減っている状況にある。なんとかしなくては日々考えている。人口減少対策と就労者の確保をしっかりとやってもらいたい。	地域の守り手である建設業の担い手の確保については、重要な課題と認識しており、「しごと」分野政策6「福島の産業を支える人材の確保・育成」等に基づき、建設業における担い手の確保に取り組んでまいります。 なお、県の建設業振興施策の基本計画である「ふくしま建設業振興プラン」においても担い手確保に関する施策を定めており、様々な取組を実施してまいります。
98	南会津	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	計画の基本目標については、①の原案がいい。ある程度漢字があったほうが読みやすい。原子力災害があるのは間違いないが、いつまでも取り上げていてという部分もある。	基本目標につきましては、皆様の御意見を踏まえた上で、総合計画審議会にも諮りながら、引き続き検討を進めてまいります。
99	南会津	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	農業も担い手不足が深刻。農業が好きで、しっかり志を持っている人でないと中々続かない。ほかの業種と比べても、農業への若者の参入は少ないと感じている。	第4章 しごと分野 政策3 施策1「農林水産業の多様な担い手の確保・育成」において、多様な新規就農者の確保・育成に向け、研修制度の充実、地域全体でサポートする体制づくり、第三者継承の推進等に取り組むこととしております。農林水産業が、意欲とやりがいを持ちながら、必要な収入を得て経営を継続できる産業となり、若い世代から職業として選択されるよう支援してまいります。
100	南会津	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	基本目標については、もう少しインパクトのある強い表現でもいいのか。皆であれを目指すんだという明確なものがあるといいと思う。	基本目標につきましては、皆様の御意見を踏まえた上で、総合計画審議会にも諮りながら、引き続き検討を進めてまいります。
101	南会津	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	基本目標については、ひらがなは分かりやすく良いと思う。p32の「健康づくりの必要性」について、今は医療崩壊等も危ぶまれているので、「医療に頼らないために」のような言葉をかっこ書きで書き加えてもいいと思った。	基本目標につきましては、皆様の御意見を踏まえた上で、総合計画審議会にも諮りながら、引き続き検討を進めてまいります。 また、p32「健康づくりの必要性」への追記につきましては、暮らし分野 政策3「安心の医療、介護・福祉提供体制の整備」において地域医療の維持・確保にかかる取組を記載しているため、原案のとおりといたします。
102	南会津	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	基本目標について、子どもたちにも見てもらい、9年後も記憶に残るようなものにするならば、もう少しわくわく感があるといいのではないかな。	基本目標につきましては、皆様の御意見を踏まえた上で、総合計画審議会にも諮りながら、引き続き検討を進めてまいります。



No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
103	南会津	審議会委員	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	設備投資する際には費用がかかる。県の補助金等もあるが、年間数えるほどしか申請が通っておらず、雲の上の存在になっている。幅広い業種でものづくりや異業種にチャレンジする際の後押しになるような施策をぜひお願いしたい。	県では創業や第二創業者を支援する「起業者支援保証」や将来性・成長性が期待できる産業を担う中小企業を支援する「福島県産業育成資金」など、中小企業制度資金を創設し、企業を支援しております。 技術支援、新規事業支援につきましては、新製品開発や異業種にチャレンジするものづくり起業等について支援しております。なお、しごと分野政策1施策2に取組を位置づけている他、現在策定中の「次期福島県商工業振興基本計画」においても、取組を記載する予定です。
104	相双	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	相双地域の一番の観光資源は新鮮な魚介類だが、未だに試験操業のまま、水揚げは震災前の20%程度しか戻っていない。日本海で大変有名な高級食材である本ズワイガニが、太平洋側で水揚げされるのは相馬市だけだが、試験操業は週1回に止まり、冬の天候不良も重なって数週間水揚げがない状況で、お客様からお叱りを受けることも多々あり、集客につなげることができない。スピード感を持って本格操業に移行するよう福島県の後押しをお願いしたい。	第4章 暮らし分野 政策1「東日本大震災・原子力災害からの復興・再生」において、生産量の回復に必要な、漁場生産基盤の回復（漁場内に残存したがれき等の撤去や水産関連施設の整備）、安全性の確保（検査・情報発信等の支援）に引き続き取り組み、沿岸漁業・沖合漁業の操業拡大の取組を支援することとしております。
105	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	福島イノベーション・コースト構想の将来の姿(P50)では、「地域産業の活性化」を目指すことを掲げている中で、現状の課題では「構想の取組による経済効果の県全体への波及」となっている。県全体に波及させるためには、立地する地域経済への波及があってはじめて県全体への波及がされるものであると考え。失われた産業の回復を目的に推進される同構想のプロジェクトが地元企業と連携しながら、経済効果を実感できる事業として実施されることを期待する。また、「地元企業と地域外企業との交流やビジネスマッチング」(P96)が期待感を高めるだけに終わらないよう、有効なものとなることを期待する。	福島イノベーション・コースト構想につきましては、主な課題として掲げた地元企業の事業再開、経営力・技術力向上など新たな事業展開や取引の拡大により、立地する地域経済への波及を目指した上で、その効果を県全体へ波及することを目指しており、地元工業団地への進出や地元企業との連携によるロボットの活用開発、固定翼型ドローンの共同開発など、地元企業の参画が進んでおります。今後とも、取組による効果が浜通り地域等において着実に広がるのにあわせて、県全体にも波及するよう進めてまいります。 また、地元企業と進出企業の連携、交流やビジネスマッチング等の取組については、しごと分野 政策1 施策3に位置づけている他、現在策定中の「次期福島県商工業振興基本計画」においても取組を記載する予定です。
106	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	福島イノベーション・コースト構想を支える人材育成に関する取組(P97)に「理数教育を推進」とあるが、一方で、理数教科が全国平均を下回っているという結果が出ている(P59)。まずは、全国平均を下回る原因究明とその具体的解決策を打ち出し、基礎学力の底上げを図る取組を期待する。	引き続き実態把握に努めるとともに、「ひと」分野政策3施策1及び4に記載のとおり、授業の充実・改善、理数コンテストの開催等により、児童生徒の学習意欲の更なる向上を図るなど、具体的解決策を講じ、理数教育の充実に努めてまいります。
107	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	企業における人材不足、雇用のミスマッチ解消のための各種施策、取組による基本指標にミスマッチを計るための指標として生産年齢人口の離職者数減少目標を掲げることも検討してみてもどうか。	離職の原因は、求職側と求人側の意向等が一致しないことによる、いわゆる雇用のミスマッチに加え、会社都合や自己都合、ポストコロナ時代を見据えた経済活動のために、より成長性の高い分野へ人材がシフトする上で発生する離職など、様々な要因が考えられることから、生産年齢人口の離職者数を雇用のミスマッチを計る指標とすることは困難ですが、御意見につきましては今後の参考とさせていただきます。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
108	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	相双地域には復興支援のため県内外から多くの労働者の方が来ているが、その方々が慢性疾患の急性増悪などで救急搬送される事例が増えている。そのような方々が働けなくなった場合、収入がなく生活支援が必要となるため、住宅支援を含む生活保護申請がスムーズにできるような体制の構築が望まれる。生活保障のない患者の医療費の未払いが増えれば、医療受け入れ拒否が発生する懸念がある。	生活保護法に基づき、その困窮の程度に応じて必要な保護を行っており、居住地がないか、又は明らかでない要援護者であっても、急迫した状況にあるときは、その急迫した事由が止むまでは職権をもって保護の種類、程度及び方法を決定し、保護を開始することになります。今後とも適正に対応してまいります。
109	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	超高齢化社会をむかえる相双地域における認知症高齢者家族を支える地域包括ケアシステムの構築が急がれている。独居高齢者への支援が整わない状況で、認知症高齢者が救急搬送されてくると、罵声や徘徊などで治療が困難な状況となり、看護師が疲弊し、離職につながる状況が起きている。高齢者が安心して在宅で生活ができるよう、地域包括ケアシステムの構築と地域包括支援センターの強化、社会福祉士・ケアマネージャーの人材確保と育成が望まれていると思う。	地域包括ケアシステムの構築と地域包括支援センターの機能強化は重要な課題と認識しております。県として、各種研修や市町村への補助金等の機能強化に向けた取り組みを行い、引き続き地域包括ケアシステムの構築を推進してまいります。
110	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	浪江町・双葉町の医療を支える南相馬市の医療を確保するための施策が必要であると考える。若い医療従事者が働き続けられるための保育所等の充実、若い医療従事者の学ぶ環境確保のための人材確保策としての定年再雇用システムが必要。認知症高齢者の増加には、看護・介護人員の増強が求められることから、定年再雇用への補助支援を切に望む。	避難地域等の医療復興につきましては、いただきました御意見を踏まえつつ、避難地域等医療復興計画等の施策に基づき対応してまいります。 保育所等の充実につきましては、避難解除区域における帰還、定住・移住を促進するため、市町村が設置する認定こども園等の施設整備に対して支援を行ってまいります。 定年再雇用への支援につきましては、厚生労働省では、65歳以上への定年引き上げや高齢者の有期契約労働者を無期雇用に転換する措置を講じた場合に、助成金を支給しております。 県では本制度の周知に努めるとともに、県の委託事業により、働くことのできる高齢者と受入企業の掘り起こしを行い、高齢者と企業のマッチングにより高齢者の就業拡大に努めております。
111	相双	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	もはやGDPという指標だけで経済を語る時代ではない。大上段の指標として、GDPに代わる国家の指標となるような新たな指標を福島から打ち出していくという視点があると良いのではないかと。経済格差をなくすような事に資するような売上げ、環境負荷をなくすような事に資する売上げなど、単純な経済指標だけではなく、SDGsに掲げられているようなものと経済発展とを両立するような新たなマクロ指標を打ち出せたら良いと思う。	指標については引き続き整理してまいります。 県の施策は、将来の姿の実現に向けた課題の解決を目指して取り組むものであり、指標はその課題解決がどれだけ達成されたかを測るものとしております。 政策・施策の達成度を適切に測ることのできる指標を設定し、「成果の見える化」に取り組むことで、実効性の高い事業の構築に繋げてまいります。
112	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	大事なしたい視点 (P40)として、「マイナスを減らすよりもプラスを増やす」という視点、「中央集権型社会から自律分散型社会への移行」という視点、「役所のベンチャー化(ローカルベンチャー)」という視点を提起したいと思う。	御提案いただきました視点につきましては、大事なしたい視点として掲げている「連携・共創」や「挑戦」の中に含まれるものと考えており、御意見として承ります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
113	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	<p>出産・子育てについては、最もハードルの高い第一子の出産に思い切って予算を付けるという方向性が良いと思う。また、教育については、地域の移住・定住に対する最大のインパクトが出る施策と考えられ、魅力的なグローバル教育に思い切った手当をつけることで、移住・定住は圧倒的に増やせると思う。</p>	<p>出産に対するハードルを下げるためには、安心して出産・子育てができる環境を整えることが重要と考えております。引き続き、周産期医療の充実や子育て家庭の経済的負担の軽減、子育て支援サービスの充実等に努めてまいります。</p> <p>グローバル教育につきましては、ひと分野 政策3 施策1『「学びの変革」の推進と資質・能力の育成』において進めていくこととしており、海外研修を始めとした国際交流等学校の実態に応じた取組によって、創造性あふれ、新たな価値を生み出す、地域や社会を牽引するリーダーを育成してまいります。</p> <p>また、グローバル人材育成のため、英語4技能の育成を図るとともに、外国人指導助手を招致し、外国語教育と国際理解を推進してまいります。</p>
114	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	<p>Artist in residenceを始め若手アーティストを地域に積極的に受け入れる施策をとることで、地域に文化資産が増えていき、移住・定住にも観光にも大きな武器になると思う。</p> <p>また、相双地域には建設工事現場が多いが、これをアートの表現の場になりうると捉え直すと、建設の段階から観光資源が生まれることになる。</p> <p>さらに、移住・定住を外から連れてくるという考え方の他に、既に建設工事関連で域内に暫定的に居住している方々を「労働力」と捉えるのではなく「住民」と捉え、地域住民との交流・町づくりへの参加を促す施策をとることで、その後その地に移住・定住をする大きな潜在層が生まれることになると思う。</p>	<p>地域の活性化を図るため、地域住民が芸術家と交流しながらアートの創作に取り組むワークショップの開催及び作品の展示を行う事業など、魅力ある地域づくりに繋がる文化振興に取り組んでいるところです。頂いた御意見も踏まえながら、引き続き、地域づくりを意識した文化振興に取り組んでまいります。</p> <p>移住・定住の促進につきましては、ひと分野 政策5 施策2「移住・定住の推進」のとおり、多様なライフスタイルの提案など、福島ぐらしの魅力について積極的に情報発信してまいります。</p> <p>また、同政策施策1及び2のとおり、本県とつながりを持つ関係人口の拡大を図るほか、地域ぐるみでの受入体制を促進していきます。</p>
115	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	<p>地域課題が多いことを「課題先進地域」と捉え直すことで、課題解決ビジネス創出のメッカとなる可能性があり、特にローカルや高齢者層をターゲットとしたビジネスアイデアや技術のシーズの実証実験を、特区による規制緩和を活用して積極的に受け入れるべきと考える。</p>	<p>原子力災害により他地域と比較してもより多くの課題を抱えている本県の復興・再生を推進するため、福島復興再生特別措置法が平成24年に成立しており、復興に必要な事業の予算措置等に限らず、課税の特例や規制等の特例についても活用できるようになっております。</p> <p>地元市町村や企業、団体等様々な主体との連携を深め、地域ごとに復興の進捗が異なる福島の現状を踏まえた制度の構築や柔軟な運用を国に求め、福島特有の課題が解決できるよう、福島特措法を最大限活用しながら、復興を推し進めてまいります。</p> <p>また、構造改革特区等につきましては、その活用が図られるよう特定事業の種類や活用事例等を県の各部署、各市町村に周知するとともに、特区の活用に関する相談に対して丁寧に対応してまいります。</p>
116	相双	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	<p>葛尾村の人口は1,400人程で、現在村内に住んでいるのは300人強と言われているが、実際に住んでいるのは200人弱であると感じている。この規模で10年後、20年後まで村が存続していけるのか非常に不安である。葛尾村が最低限、現状維持していくためには、震災前からある農林畜産業を更に再開し、新規参入を受け入れていくべきと考える。そのためには特区や新たな取組により新規参入を促進していく必要がある。</p>	<p>第4章 暮らし分野 施策5「被災者・避難者の事業再開支援」において、農林水産業の生産基盤の復旧に向けた農業用施設等の整備を進めるとともに、営農再開の加速化に関する取組として、生産から加工・流通などが一体となった高付加価値生産を展開する産地形成を図る取組を支援することとしております。</p>



No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
117	相双	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	プロイラーの場合は県産表示が必要なく、国産という名目で販売できるため、あまり風評被害はないと思うが、それに安心せず、安心・安全のために一層取り組んでいくべきと考える。福島には高い生産技術があることから、それをアピールしていく必要がある。	第4章 暮らし分野 政策1 施策2「放射線の不安を解消し、安心して暮らせる取組の推進」において、放射性物質対策・検査や情報提供に引き続き取り組むこととしております。 また、しごと分野 政策3「もうかる農林水産業の実現」において、県産農林水産物のブランド化や販売促進、高付加価値化に取り組むこととしております。
118	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	周産期医療に関する取組(P57)についてだが、双葉郡において「子どもを産む」ということが非常に難しい状況にある。「医療の充実」にとどまらず、「適正数の確保」をお願いしたい。多くの妊婦がいわき市や郡山市、南相馬市まで遠く通院をしている現状がある。安心して出産できる環境のためには、周産期医療における地域間連携が必要であると考えている。	当県の周産期医療体制につきましては、総合周産期母子医療センターを中心に、地域の分娩取扱施設等と分娩リスクに応じた役割分担や連携を図り、妊娠、出産から新生児まで対応する医療提供システムを構築しております。 双葉郡の周産期医療体制についても、当該システムにより、各周産期医療機関が地域間連携し、引き続き対応してまいります。
119	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	地域における子育て支援に関する取組(P57)についてだが、各種子育て支援サービスを本当の意味で拡充させていくために、記載されているサービスの他、企業主導型保育・ベビーシッターも明記してほしい。	企業主導型保育やベビーシッターは重要な保育の受け皿と認識しておりますが、ひと分野政策2 施策2の主な取組③「子育て支援サービスの充実に関する取組」にありますとおり、県としては、保育所や認定こども園の整備等を重点的に取り組んでいるところです。
120	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	保健医療専門職の確保に関する取組(P80)についてだが、双葉郡においては保健医療専門職の不足が深刻である。自治体・分野ごとに適正な必要人数を設定し、人材育成・確保・定着を考えていただきたい。	本県の医師や看護師を含む保健医療専門職確保に関する取組につきましては、域内での人材確保が困難な地域もあるため、県全体で広域的に人材を確保・育成した上で、不足している地域に充足できるよう事業を実施していることから、保健医療専門職の確保・定着にあたっては、県全体の必要人数等目標値を設定し、施策の達成状況を測定してまいります。
121	相双	意見発表者	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	市町村からの意見(P28)の中に「農業振興(耕作放棄地・担い手確保等)」との記載があるが、「担い手確保」についてはその後の頁に各機関の取組の記載があるが、「耕作放棄地」については記載がない。耕作放棄地の解消がなくては、農地が荒廃し、有害鳥獣のすみかとなり、山と民家の間の里山がなくなってしまうことから、耕作放棄地の解消に関する取組も取り入れていただきたい。	御意見のとおり、農地等を保全・管理していくことは、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮や鳥獣被害の防止等の面で必要であることから、部門別計画において、多面的機能支払制度や中山間地域等直接支払制度等を活用した地域ぐるみの取組や担い手への農地集積等を通じ、荒廃農地の発生防止や再生・利活用を図る取組を支援することとしております。
122	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 しごと	GAP等認証の活用(P50)について、当社でもFGAP、JGAPを取得しているが、販売の現場では消費者から「GAPとは何か」との質問を受けることが多々ある。GAPそのものが消費者にあまり知られていないことから、もっと広くPRしていくべきと考える。	第4章 政策3 施策4「戦略的な生産活動の展開」において、GAP等認証を活用したPR等について取り組むこととしておりますが、引き続き、消費者・実需者等への認知度向上に向けた取組を推進してまいります。



No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
123	相双	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	川内村でもインフラ整備が進み、いわき市や郡山市など各方面へのアクセスが便利になったが、物流の面では、物量が少ないために、震災後から変わらず、未だに村内に入ってくる運送業者が2社に限られていることから、支援をお願いしたい。	川内村を含む避難地域12市町村においては、個人向け宅配便が帰還困難区域を除いてほぼ回復している一方、企業間物流については、一部地域への集配が行われていないか、価格面などの要因から、従来どおりの条件での配送サービスの維持が難しくなっています。 これまで国において各種調査や実証事業を実施するとともに、課題解決に向けて国・県・市町村や物流事業者による協議会を開催し、意見交換を行いました。引き続き、関係機関と連携し、情報共有を行いながら対応してまいります。
124	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	「何名」「何パーセント」という定量的な成果目標だけではなくて、定性的な成果も大事なのではないかと。	総合計画の指標につきましては、数値目標の達成度を見る定量的な指標とともに、数字だけでは表せない県民の意識の変化等を測る意識調査など、定性的な指標も掲げることとしております。
125	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 暮らし	福島県がごみの排出量が全国ワースト2位ということ踏まえ、一般廃棄物と産業廃棄物の両方で県民の意識で変えていく踏み込んだ施策が必要。	ごみ減量化は、市町村と連携し、県民のライフスタイルに踏み込んだ意識改革が重要と考えており、暮らし分野 政策4 施策3「①ごみの減量化・再資源化に関する取組」において推進してまいります。 また、産業廃棄物につきましては、「②産業廃棄物の排出抑制・再生利用に関する取組」により事業者による更なる取組等について記載していることから、原案のとおりといたします。
126	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	教育費の不安がなくなると少子化は解消されないのではないかと。児童手当や18歳未満の医療費無償など行っているが、学費や奨学金制度のさらなる拡充が必要と思われる。	幼児教育無償化や家計急変に応じた授業料免除制度をはじめ、貸与型奨学金に震災特例枠を設けるなど、修学意欲のある児童生徒等が経済的な理由により教育を受ける機会が失われないよう、教育に係る経済的負担の軽減を図っております。 また、高校生や大学生を対象とした修学支援について、国庫補助制度「奨学のための給付金」について第1子と第2子以降の支給額の差を解消するための見直しを行うことや、国が大学生等を対象に実施する給付型奨学金事業等について給付額の引き上げや運用方法の弾力化など、制度の拡充を図るよう国へ要望してまいります。
127	いわき	意見発表者	その他	高齢化により耕作放棄地が増え、景観形成・農地保全が厳しくなっている。中山間地においては、国の事業で中山間地域等直接支払制度があるが、この事業の拡大・拡充・期間の延長等が必要ではないかと。	御意見のとおり、中山間地域における農地、水路、景観等の保全については、農業者のみで維持・実施していくことは困難であることから、農林水産分野の計画において、中山間地域等直接支払制度を始め多面的機能支払制度等を活用した地域ぐるみの共同活動の取組を支援することとしております。 また、当該事業の十分な予算確保や拡充について国に要望しているところであり、今後も引き続き求めてまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
128	いわき	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	4月の国によるALPS処理水の海洋放出の決定でさらなる風評被害が心配される。水産業界としては海洋放出は断固反対の立場をとりつつ本格操業を拡大する。	第4章 暮らし分野政策1施策5「被災者・避難者の事業再開支援」において沿岸・沖合漁業の操業拡大に向けた漁獲量の増大、販路の回復・開拓等の取組を支援することとしております。 ALPS処理水の処分方針決定は、復興にとって重い課題であると認識しており、政府には、国内外への情報発信とともに、関係省庁が一丸となった万全の風評対策を講じるよう引き続き強く求めてまいります。
129	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	健康長寿の取組があるが、喫煙に関する記載がない。福島の喫煙率は全国平均よりも高い。喫煙は肺がん等のリスクにも繋がるので、施策に盛り込むべき。	御意見のとおり、喫煙は肺がんを始めとする様々な疾病の原因となるため、県としては生活習慣病対策の一つに喫煙対策を含め、今後とも各ライフステージに応じた取組を推進してまいります。
130	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	待機児童ゼロと言っているが、希望する保育所に入れず遠くに預けられない方もいる。特にいわきは広いので職場・家・保育所の移動だけでも大変であるため、待機児童解消の指標を出すなら、「第一希望の保育所に入った子どもの割合」などより掘り下げていただきたい。	市町村においては、本人の希望を踏まえて入所調整をしており、その結果として、第一希望に添えないケースもありますが、待機児童を発生させないことを最優先として対応していることから「保育所入所希望者に対する待機児童数の割合」を指標として採用しております。
131	いわき	意見発表者	第4章 政策分野別の主要施策 ひと	県民の役割について県民一人一人が真剣に考える必要がある。県民が同じを思いをもって同じ方向を見るためのものを設定する必要があり、そのための1つが「誇り」ではないか。例えば先人の想いを軸に、県には県民の誇りを醸成できる取組をお願いしたい。	先人からこれまでの経験や知見を引き継ぎ、福島の誇りを育むことは、本県の復興・再生の推進や人口減少対策、風評・風化対策につながるものであり、第3章の県づくりの理念の一つに「魅力を見だし育み伸ばす地域社会(県)づくり」を掲げているほか、第4章の冒頭において県が施策を推進する上で大事にしたい視点の一つとして、「誇り」を掲げております。
132	いわき	審議会委員	その他	仕事や子育てなど、一生懸命取り組むが苦勞して途中で挫折してしまいニート等の社会問題に繋がっている。再度立ち上がる機会がある「リベンジできる福島」だと良い。	県づくりの理念の一つに「多様性に寛容で差別のない共に助け合う地域社会(県)づくり」を掲げており、お互いを認め合い自分らしく生活することが「ふくしまの将来の姿」の実現に向けて必要不可欠であると考えております。 御指摘を踏まえながら、第4章の「ひと」分野の政策4「誰もがいきいきと暮らせる県づくり」において、安心ややさしさを実感できる社会の実現に取り組んでまいります。
133	いわき	審議会委員	その他	シングル家庭が集える場があると良い。	本県では、ひとり親家庭等生活支援事業により「NPO法人しんぐるまざあず・ふおらむ・福島」に委託し、ひとり親を対象とした各種セミナー・イベント等の開催により、ひとり親同士の交流や情報交換の場を設けております。
134	いわき	審議会委員	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	当初は県民に行動を呼びかけるチャレンジングな形式だったが策定が延期になる中で変わった。「人が大切にされる」という記載は受動的と感ずる。	御意見を踏まえ、下記のとおり修正します。 (修正前)「ひとが大切にされる」 →(修正後)「ひとを大切に」
135	いわき	審議会委員	第3章 みんなで創り上げるふくしまの将来の姿	「働ける」というのは「福島でも働ける」というような消極的な意味合いに見える。「働きたい場所がある」くらいの心づもりがあってほしい。	御意見を踏まえ、下記のとおり修正します。 (修正前)「働ける場所(仕事)がある」 →(修正後)「働きたい場所(仕事)がある」

No	地 域	発言者	分 野	意見等	県の考え方
136	いわき	審議会委員	第4章 政策分野別の 主要施策 ひと	全国平均以下の指標については、県がリーダーシップをもって対応していただきたい。県だけでなくほかの団体と協力して行うなら指標に入れ込む必要がある。	県の施策は、将来の姿の実現に向けた課題の解決を目指して取り組むものであり、指標はその課題解決がどれだけ達成されたかを測るものとしております。指標の目標値を適切に設定し、政策・施策の達成度を測ることで、将来の姿の実現に必要な事業の構築に繋げてまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
137	県北	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	農業担い手の減少、耕作放棄地の拡大、ごみの不法投棄や森林の伐採による環境問題、耕作放棄に伴う鳥獣被害の拡大など非常に困っている。	御意見として承ります。農業分野の個別計画策定の際や具体の取組を進めていく中で参考とさせていただきます。
138	県北	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	「2. 地域の課題・主要施策」の課題2及び課題3の「求められています」と「求められております」の違いは、使い分けしているのか。	御意見を踏まえ、文言を統一します。
139	県北	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	中核的な自治体を持つ県北、県中、会津、いわきの地域別計画を見比べた時に、県北地域の経済に関する項目の記載が薄く感じる。例えば、デジタル化に関する取組について、山形の米沢では山形大学工学部などで結構取り組んでいる。県北は会津より米沢の方が断然近いのだから、県域を越えてでも連携するようなことを考えるべきである。	記載については見直しを行い、内容を検討してまいります。
140	県北	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	定住の絶対条件は雇用の確保。農業だけでなく、農商工連携という形の中で産業の6次化を図っていくなど何かできないか考えている。	今後、具体の取組を進めていく中で参考とするさせていただきます。
141	県北	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	観光誘客について、地域の観光資源をしっかりと開発して、地域の魅力というもの前面に発信していくことが必要である。	今後、具体の取組を進めていく中で参考とするさせていただきます。
142	県北	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	数年先にオープンする大型商業施設(伊達市 イオン)により地域の商業が大打撃を受けると思われがちだが、もう既に他の商業施設で大打撃を受けている。これから生き残っていくためには地域で今までと同じようなことをするのではなく、大型商業施設と共存できる形で事業を進めていく方が良い。	今後、具体の取組を進めていく中で参考とするさせていただきます。
143	県中	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	高度産業人材の育成はもちろん大切だが、田村地域は、大学もないところで、大学内進学率も低く、地域にどんな人材が残るかと言った時に高卒の方が地域の半数以上7割8割なのかなと思います。そういった中で地域を支える人というのは、高卒で就職して、地域に人が根付いて行ってるという実情があると思います。そういった人たちが地域を形成していく中で 質の高い人材に、どうやっとなっていくかというところが課題としてはあると思います。残ってる人材をどうやって、地域づくりを担える優秀な人材にしていくか、ということが大事だと思います。	地域の担い手の育成は、重要な課題であると認識しております。 地域の伝統・文化、地域らしさを活用した若い担い手の皆さんのチャレンジを支援することで、担い手の育成を着実に進めてまいります。



No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
144	県南	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	県南地域には難病専門の医師がいない。福島や関東圏の病院に通っているので、専門的な医者がきてくれるとよい。	第4章暮らし分野政策3施策4「医療、介護・福祉人材の確保」として全県的な医療体制整備に記載されているため、原案のとおりといたします。引き続き地域医療提供体制の整備を図ってまいります。
145	県南	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	棚倉町もキャリア教育に取り組んでおり、地域の講師を活用している。色々な方がいるので、県南地方の人材バンクのようなものをつくって、市町村を越えて、派遣できればよい。	市町村毎にそれぞれ人材バンクに類する事業を有しており、教育事務所は、それらを所管する教育委員会と連携しております。 現在「福島県地域学校協働本部事業」を実施しており、学校等からの要望があれば、講師やボランティア派遣のコーディネートを実施しております。
146	県南	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	県南地方で自分を活かして活躍している方と首都圏の方がオンラインで交流し、地元の魅力を発信する、県南地方振興局事業に参加した。市町村も巻き込み実施した方が展開が広がると感じた。また、今後の魅力の発信の仕方として、オンラインなど人を集めることだけではない方法を考えることが非常に大切である。	御意見を踏まえながら、市町村との連携、効果的な情報発信について、今後も引き続き実施してまいります。
147	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	会津には八十里越えがある。燕三条まで小一時間で行けてしまう。そうしたルートを踏まえた構想、例えば巡回コースなど考えてみるのも良いのではないか。大内宿～会津鉄道～会津若松～只見線～燕三条といったイメージ。そうした広域構想も必要ではないか。	御意見のとおり、課題3「広域観光の推進」に追加修正します。また、施策1「広域的な観光ルートの整備」及び施策3「広域連携による周遊・滞在型観光」において、進めてまいります。
148	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	会津の雪という観光資源をもっと強調しても良い。	御意見のとおり、地域の特徴「魅力的な観光資源」を追加修正しました。
149	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	文化財について、会津の価値をわたしたち自身改めて勉強しなければいけない。	御意見のとおり、課題4「地域の宝や価値」及び施策4「地域の宝を守りいかす取組」を追加修正します。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
150	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	今の農業の現状として、中山間地域等の支払交付金、多面的機能の支払交付金を活用して農地維持費を補っている。それでも離農者が増えている。これからの農業は、法人化への支援が手厚いが、中規模農業者を大事にしなければいけない。法人化しても全部が全部請け負えるわけではなく、限度がある。	御意見のとおり、課題3「担い手の育成・確保」及び施策3「多様な担い手の確保と経営の安定」を追加修正します。
151	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	観光分野と関連するが、観光農園を作ってはどうか。こどもの農業体験もできるとよい。	御意見のとおり、課題3「地域産業をいかした教育旅行」及び施策1「地域資源をいかした特色ある教育」を追加修正します。
152	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	新規就農者は、2年間研修後にいざ個人で立ち立ちという流れになるが、若い新規就農者は、夏～秋までの農業について考えているのは良いが、冬のことを考えていない点が問題。実際としては、冬は除雪作業とスキー場に出ていく人がほとんど。冬に雪が降らなくなったらどうするか。冬の農業として何か一つ県として推してほしい。そうすれば若い人も農業を始めやすくなる。	御意見を踏まえ、施策3「多様な担い手の確保と経営の安定」において、進めてまいります。
153	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	地域の観光を担っていくのは農業施設等になるというのは同感。事務局を担っている人も疲れてきてしまっているのが現状。会津にお金を入れるという仕組みづくりも必要。あっせんまで考えた推進体制を考えていくと、農業も変わってくるのではないかと。	御意見を踏まえ、施策3「経営体の収益向上」において、進めてまいります。
154	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	既存商品の見直しも大切。企業間連携、それによる新しいブランド創出、付加価値付与が、会津色をより強くし、重ねていくことにつながる。そういった視点も必要。	御意見を踏まえ、施策3「商品開発などブランド力向上」において、進めてまいります。
155	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	企業から地域への投資をあっせんすることも大切。地域全体の経営を考えると、民間からの投資という視点も重要。	御意見を踏まえ、施策1「民間企業等の地域づくり活動への支援」において、進めてまいります。
156	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	今の計画で足りないものがあるかと聞かれるとそれを探す方が難しい。むしろ、どう具体化、実現していくかという部分が大切になってくる。	御意見を踏まえ、計画の実現に向けて、しっかり取り組んでまいります。
157	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	1次産業と観光は表裏一体。1次産業があるからこそ観光が成り立っている。観光施策を決める際には、観光事業者だけではなく、農林水産業者、交通事業者、情報提供者等と一緒に話して決めることが重要。	御意見を踏まえ、施策3「観光資源の磨き上げ」において、進めてまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
158	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	既存のKPIだけでいいのか。課題として挙がっていた人口減少とともにIT化が進んでいて、住民と観光客の狭間の人が増えている。リモートワークが進み、ワーケーション施設も増えている中で、住民票はこちらにないが、週2～3日こちらで過ごしている方。こうした方のことは拾わなくて良いのか。住民ではないが、過ごしている期間にこちらでお金を落としていく。	御意見を踏まえ、施策1「交流人口や関係人口の拡大」において、進めてまいります。
159	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	コロナ禍もあってか地方移住が増えていると感じる。クラウドでデータを保存することで、学校も自由になると思う。自分のアカウントに紐づいた成績や学習進度を引っ越し先でも確認できるようになれば、移住促進になる。	御意見を踏まえ、施策1「移住・定住の推進」及び「特色ある教育」において、進めてまいります。
160	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	地域おこし協力隊は県内でも会津地方特に多いが、任期終了後起業するイメージが強いと思うが、実際のところ、自治体内に3年いて起業するのは結構難しい。特に3年目。自治体職員としての服務上の決まりを守りながら起業することの困難さ。3年目だけは委託型の協力隊にするなど、柔軟な制度にしてあげる必要があるのではないか。	御意見を踏まえ、今後の地域おこし協力隊の支援のあり方について、研究してまいります。
161	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	空き家の利活用について、補助金等は充実している印象を受けるが、情報収集の段階で、データがまだまだ出切っていないのではないか。また、行政が作るサービスのよくなることで、UXの質が低くて、そもそもそのツールが使われない。利用者目線でUXを考えることも必要。	御意見を踏まえ、施策2「空き家情報の集約及び情報発信」において、進めてまいります。
162	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	地方移住がとも増えていると思うので、こどもが安心して遊べる施設を作してほしい。	御意見のとおり、課題1「子供たちが安全に安心して学び・遊べる環境づくり」及び施策1「子供たちが安全に安心して遊べる場所等の整備」を追加修正します。
163	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	課題1にあるように、地域の絆や多世代交流について、地方移住のきっかけにはなると思うが、一方で、若い人にとっては田舎の家に入るというだけでとてもハードルが高い。聞いただけで移住をやめてしまう人もいる。必ず交流しなければいけないとなると難しいという声も実際に聞くので、考慮してほしい。	御意見を踏まえ、施策1「移住・定住の推進」において、進めてまいります。
164	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	会津の良い野菜を使ってこどもに良い食事を作ることもお願いしたい。	御意見を踏まえ、施策1「地域資源をいかした特色ある教育」及び施策2「地産地消の推進」、において、進めてまいります。
165	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	学生の頃から会津の良さを勉強してきたはずなのに自分自身あまり覚えていない。自分が戻ってきたきっかけは、友達が会津内を連れまわしてくれたこと。会津の外の人へ向けたツアーはたくさんあるが、同時に会津の中にいる人へ向けた会津ツアーを、地元の良さを知るきっかけとして作れるといい。	御意見のとおり、課題4「地域の宝や価値」及び施策4「地域の宝を守りいかす取組」を追加修正します。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
166	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	昔からやっている方、これから始めようとしている方、地域に対して何かやりたいことがある方が、情報を収集したり発信するような場所がないか、もしかすると場所はあるのかもしれないが、知らなかったり、そこにアクセスするにはハードルが高いなどが考えられる。そうした障壁を取り除いて、みんながその場にアクセスできるようにするような施策があると良い。	御意見を踏まえ、施策1「地域づくり活動への支援」において、進めてまいります。
167	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	奥会津に来てみて思ったのは、高齢者の皆さんは畑仕事や編み組みなどそれぞれ生きがいを持って充実した生活を送っているということ。イメージしていたよりも生き生きしている。	御意見のとおり、施策2「高齢者が安心して暮らし、生きがいをもって」を追加修正します。
168	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	地域に住み続けるための支援が大切。人口もどんどん減っていき、これからどうなっていくのか、という不安もあるが、新しい人材、できれば若い方たちに来てもらいたい。	御意見を踏まえ、施策1「移住・定住の推進」において、進めてまいります。
169	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	人材のリクルートが大事。ただ在宅診療をしています、というだけでは人材は集まらない。それに加えて、観光など何かしら楽しいことに関わることで、自分もやってみたいという医師や看護師を増やすような取組があると良い。これは、私たち自身が体現していかなければいけない。	御意見を踏まえ、施策1「交流人口や関係人口の拡大」及び施策2「地域医療や介護を支える人材の確保」において、進めてまいります。
170	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	奥会津4町村ども、保健医療福祉の人材が足りない。各町村保健師2～3人で頑張っているところがほとんど、残念ながら辞めていってしまう方が多い。地域に住み続けて保健医療を担ってくれる人材をどう確保するかが、地域全体の医療を支えるためには重要。	御意見を踏まえ、施策2「地域医療や介護を支える人材の確保」において、進めてまいります。
171	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	在宅医療をしていてネックなのが通信環境。少し山間部に入ると電話が通じない。計画にICTの項目も入っているが、東京23区よりも少し広い広大な地域で活動していると、もう少し通信環境をしっかりと整備してくれないと、充実した在宅医療を行うことが困難。	御意見のとおり、施策3「ICTを活用した新サービスの推進」において、進めてまいります。
172	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	人材確保にもつながることだが、長く仕事をしていただくためには、そこに住みたいと思えるような環境が必要。	御意見を踏まえ、施策1「関係者と連携して行う魅力ある地域づくり」において、進めてまいります。
173	会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	どこに誰が住んでいて、誰が支援してくれていて、よく知っているのはどこの誰、という密な情報を知っているのは地元住民。高齢の方でもできることはたくさんあるので、こうした地元住民の力もとても大切。	御意見を踏まえ、施策1「関係者と連携して行う魅力ある地域づくり」において、進めてまいります。
174	会津	審議会委員	第5章 地域別の主要施策	地域が持つ宝をもう少し強調してはどうか。塗りや国立公園などの宝を活かして新しい産業等につなげてみてはどうか。	御意見のとおり、施策4「地域の宝を守り活かす取組」及び「国立・国定公園や県立自然公園」を追加修正します。また、施策3「地域産業の更なる振興」において、進めてまいります。



No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
175	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	南会津の計画は教育や子育ての記載が少ない。人材確保の話もあったが、その人材を育成するために大切な教育等の記載も必要なのではないか。	子育てや教育に関しては、第4章ひと分野政策1及び3において全県的に取組を進めているところです。引き続き、南会津地域の課題解消に向け取組を進めてまいります。
176	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	南会津町の課題を読んだが、これから人口減少が進む中で、農福連携が大事だと考えている。高齢化が進んでも、農福連携を進めることで農業を続けていくことができるのではないかと。	御意見のとおり、障がい者の社会参加の機会の確保等、地域で取り組んでいる農福連携を支援する必要があることから、施策3に農福連携に関する記述を加えます。
177	南会津	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	南会津の計画を見ると、地域産業の振興や広葉樹材のブランド化の記載あるが、山に入る人が少なくて土地の境界も分からない人が多かったり、そもそも木材は価格も低く、何十年前から変わっていなかったりする。アウトドアブームもあるので、資材だけではなくフィールドとしての森林利用をもっと進めて欲しい。フィールド利用を進め、いろんな人に里山に入ってもらうことで関係人口にもつながると思うので、計画に入れ込めるといいと思った。	御意見を踏まえ、施策4に森林のフィールド利活用について文言を加えます。
178	南会津	審議会委員	第5章 地域別の主要施策	森林のフィールド利用は森林整備と一緒に、森林に人が入り、価値や大切さが伝わることで整備が進み、防災・減災に繋がっていくと思う。点ではなくそれぞれ繋げて考えることが大切。	御意見を踏まえ、施策4に森林のフィールド利活用について文言を加えます。
179	南会津	審議会委員	その他	インフラ整備が進むと利便性が向上する反面、南会津の孤立や分断が進んでしまうのではと心配している。	地域の連携が保てるよう、振興局が管内町村の連携を支援してまいります。
180	南会津	審議会委員	その他	南会津地域の強みはやはり森林と食べ物。地域全体で健康をテーマにしたまちづくりを進めることができる可能性を持っていると思うし、自分も森林のフィールド利用や伝統食品の加工などをつなげた取組を進めていきたい。	御意見を踏まえ、施策1「地域の特性をいかした産業の振興」の各施策により、取組を推進してまいります。
181	南会津	審議会委員	第5章 地域別の主要施策	特徴にリバティ会津や国道のことが書いてあるが、いまいち活かさきれていないと感じている。ぜひ駅の滞在のしやすさや二次交通など、周辺のハード整備もお願いしたい。自然や田舎アピールだけでは他の地域との競合に負けてしまう。是非南会津らしさというものを追求してほしい。	会津鉄道・野岩鉄道の利用促進の具体的事業を構築する中で、御意見を踏まえ様々な視点から検討してまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
182	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	「帰還した住民や移住者の生活に必要な買い物環境の整備」(P152)について、県として直接的な事業を行うのか、企業に対し補助制度を通して買い物環境の整備・まち機能の回復を図ることで間接的に取り組むのか県としての考えを教えてください。	事業者等を支援することで、買い物環境を含めたまち機能の早期回復に取り組んでおります。
183	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	東日本大震災後の地域医療提供体制は脆弱で、特に小児科の不足など子育てしていく上で不安がある。相双地域の帰還促進及び安心して暮らせる地域であるためには医療提供体制の構築は必須である。医師不足解消のための実効性ある取組を切に願う。	帰還促進のみならず移住・定住の促進には、相双地域の医療提供体制構築の推進が非常に重要であると認識しており、現行の医療人材確保事業等に継続して取り組むとともに、今後の具体的な事業構築において、関係機関の意見を伺いながら本庁と連携してより実効性のある事業の構築を図ってまいります。
184	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	相双地域には復興支援のため県内外から多くの労働者の方が来ているが、その方々が慢性疾患の急性増悪などで救急搬送される事例が増えている。そのような方々が働けなくなった場合、収入がなく生活支援が必要となるため、住宅支援を含む生活保護申請がスムーズにできるような体制の構築が望まれる。生活保障のない患者の医療費の未払いが増えれば、医療受け入れ拒否が発生する懸念がある。	生活困窮者への最適な福祉サービスの提供及び医療費未払いへの支援については、県や各市町村、各社会福祉法人等が連携した支援体制や支援制度が構築されております。今後は、支援の必要な困窮者が、適時適切に支援が受けられるよう連携体制の一層の強化に努めてまいります。
185	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	超高齢化社会をむかえる相双地域における認知症高齢者家族を支える地域包括ケアシステムの構築が急がれている。独居高齢者への支援が整わない状況で、認知症高齢者が救急搬送されてくると、罵声や徘徊などで治療が困難な状況となり、看護師が疲弊し、離職につながる状況が起きている。高齢者が安心して在宅で生活ができるよう、地域包括ケアシステムの構築と地域包括支援センターの強化、社会福祉士・ケアマネージャーの人材確保と育成が望まれていると思う。	高齢者等が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためには、医療、介護、介護予防、住まい及び日常生活が包括的に確保される仕組みが重要であると認識しており、関係機関と連携しながら、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムの構築を推進するとともに、福祉人材の確保及び定着にも継続して取り組んでまいります。
186	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	浪江町・双葉町の医療を支える南相馬市の医療を確保するための施策が必要であると考えている。若い医療従事者が働き続けられるための保育所等の充実、若い医療従事者の学ぶ環境確保のための人材確保策としての定年再雇用システムが必要。認知症高齢者の増加には、看護・介護人員の増強が求められることから、定年再雇用への補助支援を切に望む。	医療提供体制構築の推進及び地域包括ケアシステム構築の推進につきましては、地域の特性や実情に応じて広域的に対応することも必要であると認識しており、関係機関の意見を踏まえながら、相双管内の医療及び福祉の体制の構築・充実に向け取り組んでまいります。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
187	相双	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	現在、双葉郡には特別な支援が必要な子ども達が療育を受けられる機関がない。障がいがある子ども達が健やかに支援を受けながら育っていける環境であるかという点で非常に疑問である。「療育」について、「子育て世代包括支援センター」と同じ項目内に併記されているが、抜き出して別に項目立てして記載してほしい。	子どもに対する支援は、障害の有無にかかわらず児童福祉法や母子保健法等に基づいて各種の事業を行っていくことから、同一項目で整理することといたしました。しかしながら、相双地域における障がい児への支援は重要な課題と認識しており、今後もより一層、相双地域での支援体制構築の推進に向け関係機関と連携して取り組んでまいります。
188	いわき	意見発表者	その他	内閣府で実施する「SDGs未来都市」等の仕組みに対して、いわき地方振興局がいわき市を後押しをしていただきたい。	御意見については、関係部局と情報共有し、具体的事業を構築する際の参考とさせていただきます。
189	いわき	意見発表者	その他	災害支援のネットワーク組織が平時から情報交換等行い繋がるのが大切。そういった場づくりの支援も含めて施策に盛り込んでいただきたい。	御意見については、関係部局と情報共有し、具体的事業を構築する際の参考とさせていただきます。
190	いわき	意見発表者	その他	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、生活困窮者は増えている。実際にそういったニーズが地域にあるのだということを踏まえた上で、民間のみのセーフティーネットだけではなく、より踏み込んだ施策を望む。	御意見については、関係部局と情報共有し、具体的事業を構築する際の参考とさせていただきます。
191	いわき	意見発表者	その他	農業を規制だけで困ってしまうのではなく、広く多くの方々が参画できるような施策もあると良いのではないかと。	持続的な農業の発展のため、多様な担い手を確保・育成することは必要であると考えます。 引き続き、効率的な営農及び作業の負担軽減を図る取組や、地域に対する愛着心を醸成する取組等により、就業者の確保や定着を進めてまいります。
192	いわき	意見発表者	第2章 福島県を取り巻く現状と課題	福島県建設業協会は県と防災協定を結んでいるが、いわき市周辺の町村には会員企業が少なく、災害時にはいわき市だけでなく周辺の町村に対する緊急対応も必要がある。振興局単位をまたいで横断的に検討しなければ災害対応が非常に厳しい。	災害発生時は速やかな公共土木施設の応急復旧等が求められるため、地域に精通した建設企業と応援協定を結んでいるものでありますが、いわき市周辺の町村において、企業数の減少から災害時の現場対応が困難となる場合などの対応については、関係団体等とも連携しながら有効な対策を検討していきたいと考えております。

No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
193	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	週休二日、トイレの整備、ハラスメント教育等により、女性技術者などを増やすことで、労働者不足を解消する必要があるのではないか。	女性や若者が入職し定着しやすくなるよう、ICT技術の活用、週休二日確保モデル工事の推進などの働き方改革や、快適トイレなどの現場環境の改善に取り組んでまいります。 また、建設関係団体の入職者の育成、定着のための研修に対する補助や、SNSを活用した魅力ある建設業の職場紹介など、県内建設業の担い手確保に取り組んでまいります。
194	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	観光交流人口だけでなく病院まで患者を運ぶ時間を短縮するために道路を改良して有効に活用しなければならない。特に相双地区からも運ぶことも考えなければならない。	ふくしま復興再生道路である国道399号、地域連携道路であるいわき石川線など、地域の活力や安全・安心を支える道路整備を進めてまいります。
195	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	アフターコロナを見据え、観光交流人口促進のために、港をうまく活用していただきたい。いわきは観光に立脚をすべきと考えている。	御意見を踏まえ、クルーズ船の受入等インバウンドを含めた国内外の観光客受入体制の整備や情報の発信に取り組んでまいります。
196	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	小名浜港は石炭の戦略港湾の指定を受けているが、アンモニア・水素などカーボンニュートラルの輸入拠点として、バッテリーバレー構想も含め、新産業をけん引していただきたい。	御意見を踏まえ、課題1及び施策1を追加修正します。小名浜港では、国の検討会を踏まえ、カーボンニュートラルポート形成促進に向けた施策を推進いたします。
197	いわき	意見発表者	その他	いわき合同庁舎の立地はここで良いのか。大雨が降ると目の前の道路は陥没し人の行き来ができなくなる。災害時に発信する拠点としてはふさわしくない場所と感じる。	御意見については、関係部局と情報共有し、具体的事業を構築する際の参考とさせていただきます。
198	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	農産物の風評被害の払拭・販路拡大には、さらに強力に取り組まなければならない。	引き続き、農林産物に関する緊急時環境放射線モニタリング検査を実施するとともに、消費者に対し正確で分かりやすい情報を発信します。
199	いわき	意見発表者	その他	新型コロナウイルス感染症の影響による米の消費量が大きく減退のため、飼料米の転嫁せざるを得ない状況もあり、農家はかなりの苦勞されている。	米の消費量は、新型コロナウイルス感染症の影響のほか、人口減少等の影響により減少傾向にあります。今後の農業施策として、飼料米等の新規需要米への転換は、経営安定や効率的な営農を確立する品目の一つとして、継続して推進していく必要があると考えます。



No	地域	発言者	分野	意見等	県の考え方
200	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	学生が県内で活躍できる場を与えることにより、人材育成・本県の農業の発展に繋がるのではないかと。	御指摘のとおり、必要なことと捉えており、あらゆる機会を活用して活躍できる場を設けていきたいと考えます。
201	いわき	意見発表者	その他	ウニ・アワビ等の密漁がある。県にも監視等の協力をお願いしたい。	引き続き、国の交付金等を活用し、看板の設置等密漁防止対策に対して支援するとともに、県警、海上保安部と連携し、密漁防止に努めてまいります。
202	いわき	意見発表者	その他	若手漁業者や漁業就業者が浜に定着する環境が必要。令和元年まで県では若手漁業者を対象とした漁業習得研修を実施しており好評だった。事業の復活をお願いする。	若手漁業者を対象とした漁業習得研修については、漁業士会活動を通じて支援してまいります。
203	いわき	意見発表者	その他	東京電力等が実施している海域モニタリングについては、地元漁業者と一緒に実施することで客観性、透明性、信頼性の確保になり風評払拭に繋がると考えている。	引き続き、東京電力等が実施している海域モニタリングの継続を求めてまいります。
204	いわき	意見発表者	その他	地元企業へのボランティア休暇制度など、ボランティア人材確保にも取り組んでいただきたい。高齢者雇用が進めば、ボランティア人材不足・高齢化はますます進むと考えている。	御意見については、関係部局と情報共有し、具体的事業を構築する際の参考とさせていただきます。
205	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	産業の集約化・雇用の創出と比べて、働き手の確保に関する取組は位置づけが下にあると感じる。コロナ禍以前より人手不足は課題となっており、具体的な取組が必要。	御意見を踏まえ、産業の振興を図るために人材育成・働き手の確保を進めるとともに、働きやすい環境の整備に向けた取組を促進してまいります。
206	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	率先力となる働き手を確保しつつ次世代の働き手を有する家庭の取り込みをするために、特にシングル家庭が働きやすく、子育てや生活がしやすい環境整備等を進め移住を促進できないか。	御意見を踏まえ、引き続き、移住・定住を推進してまいります。
207	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	ニーズが拡大している外国人材についても、働きやすい・生活しやすい環境の整備を県に期待する。	御意見を踏まえ、外国人等が共生し地域に定着できるよう、多文化共生の取組の拡充等、誰もが暮らしやすい環境の整備を進めてまいります。
208	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	7地域の代表を選抜して有事に備え地域の枠を超えて議論できる「福島MBA」のような教育体制を組んで人材育成に県ぐるみで取り組めないか。	御意見を踏まえ、地域の人材や資源を生かし、地域活動を担う若手人材の育成の取組を支援します。
209	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	地域の広域性や、多様性をいかにするための専任のプロデューサーやコーディネーターのような人物が必要。	御意見を踏まえ、地域づくりに取り組むための核となる人材の育成を進めてまいります。
210	いわき	意見発表者	第5章 地域別の主要施策	地域経済の振興への支援という側面から、市場の変化等社会の変化についていけない団体がある。自己改革が難しい団体もあるため、支援をぜひ県にお願いしたい。	御意見を踏まえ、持続的な経営基盤の強化を図るための取組を支援してまいります。

No	地 域	発言者	分 野	意見等	県の考え方
211	いわき	意見発表者	第5章 地域別の 主要施策	同規模の県内市町村と比較したときの医師不足は年々深刻になっている。県としての支援を短期・中長期で視点でぜひお願いしたい。	御意見を踏まえ、医療従事者の定着促進と人材育成への支援を行ってまいります。
212	いわき	意見発表者	その他	ボランティア団体を支援する施策があると非常にありがたい。ボランティア団体は運営費を会費等でまかなっている場合も多く活動が難しい。	御意見については、関係部局と情報共有し、具体的事業を構築する際の参考とさせていただきます。